

上智大学大学院法学研究科法曹養成専攻

自己点検・評価報告書

(2007年7月～2011年6月)

上智大学大学院法学研究科法曹養成専攻

自己点検・評価委員会

2011年(平成23年)9月

まえがき

上智大学は、1995年度から自己点検・評価制度を導入し、直近では、2008年度の自己点検・評価報告書が2009年3月に公表されている

(<http://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/data/jikotenken>)。

上智大学法科大学院は、大学院法学研究科の一専攻（法曹養成専攻）として設置されているので、自己点検・評価についても、こうした従来の全学的な制度の枠組みにおいても実施されている。

しかし、法科大学院は、専門職を養成するための独立性を持った機関でもあって、外部機関による厳格な評価を受けなければならないこととされている。そこで、本法科大学院では、既存の制度とは別に、独自の自己点検・評価制度を設けて、法科大学院における教育活動等に関して自ら点検しつつ、外部の第三者に対して状況を示して評価を得るべく外部評価委員会を設置し、外部評価を毎年行っている。現在の外部評価委員は、落合誠一中央大学法科大学院教授、原壽長島・大野・常松法律事務所代表弁護士、酒巻匡京都大学大学院法学研究科教授である。

法科大学院に関する認証評価機関による第三者評価については、法定の5年ごとに実施することとしているが、本法科大学院に対する大学評価・学位授与機構による最初の評価は、2007年に行われた。本法科大学院は、上記第三者評価に必要とされる「2007年度自己評価書」（2007年6月までの自己点検・評価書）を提出し、その前年の2006年9月には、毎年の外部評価にかかる資料をまとめたものとして、「自己点検・評価報告書（2004年4月～2006年7月）」を冊子として公表し、いずれもホームページで公表している。

なお、2008年3月の大学評価・学位授与機構による評価においては、「平成19年度実施法科大学院認証評価報告書」により、本法科大学院が同機構が定める法科大学院評価基準に適合しているとの評価結果が出されている

(<http://www.sophialaw.jp/pdf/houkokusyo.pdf>)。

上智大学法科大学院では、自己点検・評価委員会及びFD委員会等を中心に自己点検・評価を行う体制を作り、毎年、自己点検を行い、上記の外部評価委員による評価を受けているところであるが、この度、それらをまとめた自己点検・評価報告書を冊子として公表するものである。

本報告書は、2部構成になっており、第Ⅰ部は、本法科大学院における教育活動等に関する自己点検・評価の結果（2007年7月～2011年6月）であり、第Ⅱ部は、本法科大学院に所属する教員の研究および教育上の業績、学外での公的活動、社会的貢献活動等についての記録（2006年8月～2011年6月）である。

なお、本法科大学院では、法科大学院の教育活動等に関する重要事項に関しては、上智大学法科大学院のホームページ上で随時公表しており、また、毎年度の教育内容にかかわる重要事項については、各年度の「法科大学院履修要綱」に記載し、当該履修要綱を法科大学院ホームページからダウンロードできる形にすることによって広く一般にも公表している(<http://www.sophialaw.jp/>)。

また、法科大学院所属教員の教育・研究活動、社会活動等については、「上智大学教員教育研究情報データベース」

(<http://librsh01.lib.sophia.ac.jp/scripts/websearch/index.htm?lang=ja>)を通じて、随時公表している。

2011年 9 月

法科大学院長 小幡 純子

※本自己点検・評価報告書は、2007年7月～2011年6月の期間を対象としているが、第Ⅱ部の教員の個人活動等については、2006年8月～2011年6月の期間を対象としている。

まえがき	1
目次	3
第Ⅰ部 教育活動等に関する自己点検・評価の結果	7
第1章 法科大学院の理念	9
第2章 教育体制	11
2-1 教育研究組織	11
(1) はじめに	11
(2) 教員組織の概要	11
(3) 専任教員の配置と構成	12
2-2 教育内容(カリキュラム)	16
(1) カリキュラムの概要	16
(2) カリキュラムに関する自己点検・評価	17
2-3 進級・修了	19
(1) 進級・修了認定の要件について	19
(2) 進級・修了の状況	20
2-4 成績評価と到達度の確認	21
(1) 成績評価基準について	21
(2) 到達度の確認について	23
2-5 教育の充実・改善のための制度—FD活動など—	23
(1) 概要	23
(2) 授業アンケート	24
(3) オープン授業	24
(4) FDミーティング	24
(5) ガイダンス、意見交換会、ご意見Box等	24
第3章 入試制度・状況	26
3-1 入学定員・出願方法・他学部卒・社会人・外国語特別枠	26
3-2 入学試験	26
(1) 実施時期	26
(2) 第1次試験	26
(3) 第2次試験	27
(4) 入学者選抜方法	27
(5) 入学予定者のための導入セミナー	28
3-3 入試結果の状況	29

第4章	教育の成果	31
4-1	新司法試験の結果	31
4-2	進路状況	32
第5章	学生生活・福利厚生	33
5-1	授業料・奨学金等	33
(1)	授業料	33
(2)	奨学金	33
5-2	施設・福利及び厚生	35
(1)	施設	35
(2)	学生相談	35
(3)	健康相談	35
(4)	セクシャルハラスメント対策	35
(5)	学生金庫・アルバイト紹介	35
(6)	法科大学院研修生制度(市谷キャンパス研修施設)	35
5-3	学生に対する学習支援体制	36
(1)	修了生弁護士によるチューター制度	36
(2)	教員によるクラス担任制度	36
5-4	就職支援体制	36
5-5	障害のある学生に対する支援	37
(1)	修学のために必要な基本的な施設及び設備の整備充実	37
(2)	修学上の特別措置などの配慮について	37
別紙1	〔開講科目担当表〕	39
別紙2	〔授業アンケートの結果〕	65
第Ⅱ部	教員の個人活動	77
1.	江藤 淳一	79
2.	更田 義彦	82
3.	福田 誠治	84
4.	葉玉 匡美	87
5.	原 強	92
6.	平川 雄士	95
7.	石井 文晃	99
8.	岩瀬 徹	101
9.	加藤 雅信	103
10.	北村 喜宣	107
11.	熊澤 貴士	113
12.	松井 智予	114

13.	森下 哲朗	117
14.	長沼 範良	124
15.	野田 耕志	127
16.	小幡 純子	130
17.	越智 敏裕	135
18.	奥富 晃	139
19.	島田 聡一郎	142
20.	田頭 章一	146
21.	高見 勝利	150
22.	滝澤 正	154
23.	和仁 亮裕	157

第 I 部

教育活動等に関する自己点検・評価の結果

第1章 法科大学院の理念

本法科大学院は、本学の教育理念を当然のことながら体现するものであり、具体的には次のような教育を目指している。

第1に、上智大学はキリスト教的ヒューマニズムに基づく人間形成を建学の精神としている。

他者のために、他者と共に生きる人間への成長を目指し、かけがえのない人生を生きる人々の喜びや悲しみに深く共感しうる豊かな人間性を涵養する教育は、将来法曹となって社会的に貢献しようと思っている者に対しては、とりわけ重要なことである。法科大学院においては、概して実務的な法技術を身につけさせる教育が中心となるが、本学においては、その中でも様々なかたちで学生一人ひとりの人格と個性を尊重し、その与えられた天分を最高度に伸ばすことのできる人間教育を行うこととしている。また、社会に生起する様々な問題に対して広い関心と興味を持たせ、人間や社会のあり方に関する思索を深める教育を実施している。本法科大学院では、「法曹倫理」や基礎法・隣接科目の充実のほか、とりわけ中規模校の利点を生かして、学生相互の意見交換による切磋琢磨とともに、教員と学生との距離を近いものとし、個々の学生が教員と親しく接することを通じて、あらゆる授業において、密度の濃い教育を行うという理想に向けて努力している。

第2に、上智大学は単に知識を多く有するというのではなく、新しい問題に対処する智慧を身につけさせる教育を理念としている。

現代社会においては、新たに生起する法的紛争や問題に対して、単に知識を当てはめ解決するのではなく、未知の事象に対処することができる能力を養うことが必要とされている。これは本学の教育理念とまったく一致するところであるが、本年3月11日の東日本大震災後の社会・経済状況をみるならば、広い視野と想像力を持った法曹を養成することの必要性はきわめて大きいと言うべきであろう。本法科大学院では、講義形式の授業だけでなく、少人数での演習方式・双方向の対話形式や、模擬裁判・ロールプレイ型ワークショップ・実際の法律相談への参加など多様な授業を適宜組み合わせ活用し、柔軟な法的思考能力を養う教育を実現している。また理論と実務を架橋した教育もこうした目的の達成にあたっては不可欠であり、研究者教員と実務家教員とで、共同担当の授業の実施のほか、教育方法の打合せ、教材の開発等を積極的に行っている。

第3に、上智大学は国際性を身につけさせる教育を重視している。

法科大学院と関連の深い上智大学法学部において、1980年にわが国ではじめて国際関係法学科が設置されているのは、その一つの現れである。21世紀の社会は、多様な価値観を持った人々が豊かで安全な生活を送ることができ、国際的にも開かれた自由な共生社会でなければならない。本法科大学院における教育は、このような社会において、これを支え推進する国際的な関心をもった法曹を育てることも狙いとしている。国際関係法科目や外国法科目を重視するとともに、外国人教員や外国語による教育も部分的に取り入れ、日本を代表する渉外法律事務所と協力するなどして、将来国際的に活躍できる人材の育成を目指している。

第4に、上智大学は、近年、本学が取り組むテーマとして「環境」を重視してきた。

法科大学院と関連が深い上智大学法学部において、1997年にわが国ではじめて地球環境法学科が設置されており、2005年には独立大学院として地球環境学研究科（地球環境大学院）が開設されている。地球的規模で拡大する環境問題を解決するために、法的視点を有する人材は不可欠である。環境問題に強い法曹に必要な環境法実務演習や企業環境法など、環境法科目を充実させ、環境法政策に対して多角的なアプローチの手法を思索することにより、21世紀に必要とされる環境法を駆使できる法曹の育成を目指している。本法科大学院における環境法関連科目の充実度では、日本随一ということができよう。

第2章 教育体制

2-1 教育研究組織

(1)はじめに

本法科大学院は、上智大学大学院法学研究科法曹養成専攻として設置されており、設立当初は、学生定員300名（入学定員100名）であったが、2010年9月（2011年度）入試より、入学定員の削減を行い、標準コース（3年制）40名、短縮コース（2年制）50名を入学定員としたため、2011年度は過渡期のため学生収容定員290名であるが、2013年度にかけて270名となる予定である。法曹養成専攻の所属教員として、専任教員22名及びみなし専任教員1名の合計23名の教員が配置されている（2011年度）。そのうち7名は、実務家教員である。これらの教員は、いずれも、担当する授業科目に関し高度の教育能力を有しており、本法科大学院の規模に応じて必要とされる教員が十分に配置されているといえる。

さらに、本法科大学院では、その教育目標を実現するために必要となる数多くの科目を展開しているが、教育上主要と認められる科目のほとんどが法科大学院所属の専任教員あるいは上智大学法学部専任教員によって担当されている。今後もこの体制を維持して、教員間の緊密な連携を図りつつ教育内容の充実・改善を図ることとしている。

(2)教員組織の概要

2008年度～2011年度に本法科大学院に配置されている専任教員は、次頁以降の表のとおりである。

本法科大学院の専任教員は、研究者教員・実務家教員ともに、年齢バランスも良く、それぞれ担当する専門分野において日本をリードし、あるいは将来を嘱望される優れた研究業績あるいは実務能力を有する。

研究者教員は、いずれも、専攻分野について教育上及び研究上の業績を有する者であり、各教員の個人活動の部で記載されているとおり、高水準の研究業績を示している。また、実務家教員は、いずれも、その専門とする実務分野で、豊かな識見と高度の見識・技能を有することで高い評価を得ている日本有数の実務家であり、各種の研修・教育を担当した実績からも、高度の実務的スキルを教授する能力を有している。

専任教員の教育・研究活動については、本報告書の教員の個人活動の部で詳述されているが、兼任教員、兼任教員も含めて、教員の基礎的データは、上智大学法科大学院のホームページ上で公開されており、また、教育・研究活動、社会活動等の詳細については、「上智大学教員教育研究情報データベース」で、随時公表されている。

教員の基礎的データ

<http://lawschool.cc.sophia.ac.jp/kyouin/index.html>

上智大学教員教育研究情報データベース

<http://librsh01.lib.sophia.ac.jp/scripts/websearch/index.htm?lang=ja>

(3) 専任教員の配置と構成

①本法科大学院の学生収容定員は2010年度まで300名、2011年度は290名（2012年度は280名、2013年度からは270名）であることから、必要とされる専任教員の数は20名ないし18名であるところ、これを超える23名が配置され（下記表参照）、多様な法分野に対応できる充実した教育体制となっている。なお、当面の措置として、上智大学法学部各学科に所属する教員3名を法科大学院の専任教員（ダブルカウント、専・他）として取り扱っているところであるが、それ以外の教員は、法科大学院に限り、専任教員として取り扱われている。2014年度には、教育研究体制の充実・強化によって、専任教員いずれもが法科大学院に限り専任教員として取り扱われるようにする予定である。

専任教員23名のうち、20名が教授又は実務家教授である。その比率は87%であり、このことは、教育・研究・実務の各方面において豊富な経験を有する教員がほとんどの領域にわたり配置されていることを意味し、本法科大学院の教育体制が優れたものであることを示している。

法律基本科目の指導を担当する者としては、いずれの年度も、下記表のとおり、憲法、行政法、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法の7科目すべてについて専任教員が配置されている。各教員は、本報告書の教員の個人活動の部で詳述されているとおり、各分野において高水準の研究業績を積み、かつ教育経験を重ねており、本法科大学院では、すべての法律基本科目について適切に指導できる専任教員をバランスよく配置しているといえる。

②さらに、本法科大学院では、基本的な法領域に関する基礎的な理解や論理的・分析的思考能力を十分に学修させた上で、先端的・応用的分野及び実務的分野への架橋を図るため、基礎法学・隣接科目の教育、展開・先端科目の教育を担当する教員を配置している。とりわけ、国際問題や環境保全に秀でた21世紀を担う法曹を養成するという観点から、これら両分野に関する教育・研究の豊富な実績を有する専任教員を複数配置して、国際関係法と環境法に特化した選択科目群を展開しており、このことは本法科大学院の特徴を示しているといえる。

③専任教員の年齢構成は、2011年度の法科大学院所属専任教員では、30歳代5名、40歳代5名、50歳代8名、60歳代5名となっており、適正なバランスが保たれている。

④実務家教員は7名（うち1名はみなし専任である派遣検察官）が配置され、専任教員に占める割合は、約30%である。いずれも5年以上の実務経験を有する法曹であって、高度の実務能力を有している。各教員の実務経験については、本報告書の教員の個人活動の部で詳述されているとおりであり、いずれも、担当する授業科目との関連が認められる。

⑤本法科大学院では、教育上主要と認められる科目として、憲法、行政法、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法からなる法律基本科目群、及び法曹倫理、訴訟実務基礎（民事）、訴訟実務基礎（刑事）からなる法律実務基礎科目群を配置し、それらをすべて必修科目として位置づけている。2010年度において、これら教育上主要と認められる科目として開講されたクラスは、合計41クラスであるが、派遣裁判官による訴訟実務基礎（民事）2クラス以外はすべて法科大学院専任教員及び法学部所属専任教員（兼任教員）が担当している。このうち、法科大学院専任教員による授業担当は31クラスで、

その比率は約75%である。

⑥本法科大学院の専任教員は、良好な教育研究環境を維持するという観点から、原則として、年間の授業負担数を14単位(研究者養成のための大学院法学研究科科目を含み16単位)とすることとされている。なお、科目の特性等の事情により、これをやや上回る専任教員もいるが、おおむね年間20単位以下の範囲にある。授業負担の適正化という観点から、すべての教員について、原則として年間20単位以下にとどめる方策を検討することが今後の課題として考えられる。

専任教員の教育・研究水準の向上を図るため、本法科大学院の専任教員は、「教員特別研修制度に関する規程」の定めるところにより、6年以上継続して勤務したときは、1年間の特別研修期間を与えられる資格を有することとされている。また、「上智大学教員在外研究規程」の定めにより、原則として1年以内の在外研究期間を与えられることが可能である。2007年度以降、法科大学院所属教員の実績は下記の通り4名である。

- ・江藤淳一(2008年度より専・他)
特別研修 2007年10月～2008年9月
- ・北村喜宣(専・他)
特別研修 2007年度
在外研究 2007年12月～2008年2月
- ・田頭章一(2008年度まで専・他、2009年度より専任)
在外研究 2007年10月～2008年9月
- ・滝澤 正(専任)
特別研修 2008年度

⑦本法科大学院の専任教員の教育上及び研究上の職務を補助するため、法科大学院・法学部共通の特別研究員(PD)が2～3名配置されている。また、法科大学院図書室には、上智大学図書館所属の司書職員1名が配置され、必要なレファレンス業務に従事している。

⑧なお、上智大学法科大学院の運営・発展に顕著な功績のあった個人・団体の顕彰に関する上智大学法科大学院顕彰規程を2010年1月31日に制定している。2010年3月に退職した伊集院功元教授に対して「特別功労顕彰」を授与した。

2008年度

		氏名	職名	所属	専門
1	専	町野朔	教授	法科大学院	刑事法
2	専	吉川栄一	教授	法科大学院	商法
3	専	高見勝利	教授	法科大学院	憲法
4	専	滝澤正	教授	法科大学院	比較法
5	専	加藤雅信	教授	法科大学院	民法
6	専	佐藤岩昭	教授	法科大学院	民法
7	専	長沼範良	教授	法科大学院	刑訴法
8	専	原強	教授	法科大学院	民訴法

9	専	小幡純子	教授	法科大学院	行政法
10	専	森下哲朗	教授	法科大学院	国際取引法
11	専	小塚莊一郎	教授	法科大学院	商法
12	実・専	伊集院功	実務家教授	法科大学院	実務科目
13	実・専	更田義彦	実務家教授	法科大学院	実務科目
14	実・専	和仁亮裕	実務家教授	法科大学院	実務科目
15	実・専	葉玉匡美	実務家教授	法科大学院	実務科目
16	実・み	田中知子	実務家教授	法科大学院	実務科目 (派遣検察官)
17	実・専	平川雄士	実務家准教授	法科大学院	実務科目
18	専・他	奥富晃	教授	法律学科	民法
19	専・他	田頭章一	教授	法律学科	民訴法
20	専・他	森戸英幸	教授	法律学科	労働法
21	専・他	江藤淳一	教授	国際関係法学科	国際法
22	専・他	北村喜宣	教授	地球環境法学科	環境公法
23	専・他	越智敏裕	准教授	地球環境法学科	環境法

2009年度

		氏名	職名	所属	専門
1	専	町野朔	特別契約教授	法科大学院	刑事法
2	専	吉川栄一	教授	法科大学院	商法
3	専	高見勝利	教授	法科大学院	憲法
4	専	滝澤正	教授	法科大学院	比較法
5	専	加藤雅信	教授	法科大学院	民法
6	専	佐藤岩昭	教授	法科大学院	民法
7	専	長沼範良	教授	法科大学院	刑訴法
8	専	原強	教授	法科大学院	民訴法
9	専	小幡純子	教授	法科大学院	行政法
10	専	田頭章一	教授	法科大学院	民訴法
11	専	森下哲朗	教授	法科大学院	国際取引法
12	専	小塚莊一郎	教授	法科大学院	商法
13	実・専	伊集院功	実務家教授	法科大学院	実務科目
14	実・専	更田義彦	実務家教授	法科大学院	実務科目
15	実・専	和仁亮裕	実務家教授	法科大学院	実務科目
16	実・専	葉玉匡美	実務家教授	法科大学院	実務科目
17	実・み	田中知子	実務家教授	法科大学院	実務科目 (派遣検察官)
18	実・専	平川雄士	実務家准教授	法科大学院	実務科目
19	専・他	奥富晃	教授	法律学科	民法

20	専・他	森戸英幸	教授	法律学科	労働法
21	専・他	江藤淳一	教授	国際関係法学科	国際法
22	専・他	北村喜宣	教授	地球環境法学科	環境公法
23	専・他	越智敏裕	准教授	地球環境法学科	環境法

2010年度

		氏名	職名	所属	専門
1	専	町野朔	特別契約教授	法科大学院	刑事法
2	専	高見勝利	教授	法科大学院	憲法
3	専	滝澤正	教授	法科大学院	比較法
4	専	加藤雅信	教授	法科大学院	民法
5	専	奥富晃	教授	法科大学院	民法
6	専	長沼範良	教授	法科大学院	刑訴法
7	専	原強	教授	法科大学院	民訴法
8	専	小幡純子	教授	法科大学院	行政法
9	専	田頭章一	教授	法科大学院	民訴法
10	専	森下哲朗	教授	法科大学院	国際取引法
11	専	野田耕志	准教授	法科大学院	商法
12	専	松井智予	准教授	法科大学院	商法
13	実・専	更田義彦	実務家教授	法科大学院	実務科目
14	実・専	岩瀬徹	実務家教授	法科大学院	実務科目
15	実・専	和仁亮裕	実務家教授	法科大学院	実務科目
16	実・専	葉玉匡美	実務家教授	法科大学院	実務科目
17	実・み	田中知子	実務家教授	法科大学院	実務科目 (派遣検察官)
18	実・専	石井文晃	実務家教授	法科大学院	実務科目
19	実・専	平川雄士	実務家准教授	法科大学院	実務科目
20	専・他	島田聡一郎	教授	法律学科	刑法
21	専・他	江藤淳一	教授	国際関係法学科	国際法
22	専・他	北村喜宣	教授	地球環境法学科	環境公法
23	専・他	越智敏裕	准教授	地球環境法学科	環境法

2011年度

		氏名	職名	所属	専門
1	専	高見勝利	教授	法科大学院	憲法
2	専	滝澤正	教授	法科大学院	比較法
3	専	加藤雅信	教授	法科大学院	民法
4	専	奥富晃	教授	法科大学院	民法
5	専	長沼範良	教授	法科大学院	刑訴法

6	専	原強	教授	法科大学院	民訴法
7	専	小幡純子	教授	法科大学院	行政法
8	専	田頭章一	教授	法科大学院	民訴法
9	専	福田誠治	教授	法科大学院	民法
10	専	森下哲朗	教授	法科大学院	国際取引法
11	専	島田聡一郎	教授	法科大学院	刑法
12	専	野田耕志	准教授	法科大学院	商法
13	専	松井智予	准教授	法科大学院	商法
14	実・専	更田義彦	実務家教授	法科大学院	実務科目
15	実・専	岩瀬徹	実務家教授	法科大学院	実務科目
16	実・専	和仁亮裕	実務家教授	法科大学院	実務科目
17	実・専	葉玉匡美	実務家教授	法科大学院	実務科目
18	実・み	熊澤貴士	実務家教授	法科大学院	実務科目 (派遣検察官)
19	実・専	石井文晃	実務家教授	法科大学院	実務科目
20	実・専	平川雄士	実務家准教授	法科大学院	実務科目
21	専・他	江藤淳一	教授	国際関係法学科	国際法
22	専・他	北村喜宣	教授	地球環境法学科	環境公法
23	専・他	越智敏裕	教授	地球環境法学科	環境法

2-2 教育内容(カリキュラム)

(1)カリキュラムの概要

上智大学法科大学院では、法律基本科目、法律実務基礎科目、A群実務演習科目、B群実務科目、展開・先端科目等をバランスよく配置している。また、学生の選択の幅を広げるために、早稲田大学法科大学院との相互科目履修による学生交流も行っており、毎年、10科目程度の早稲田大学法科大学院からの提供科目を履修することができるようになっている(2011年度履修要綱39頁参照)。

カリキュラム編成に関しては、学生に対する学習効果をより高めるために、毎年、カリキュラムの検討を行い、必要に応じて、科目の組替え、科目の新設、履修年次の変更等を行っている。FD活動の一環として毎学期実施される学生による授業アンケートにおける意見や、毎学期末に行う意見交換会での学生の声も反映しつつ、また、FDミーティング等での教育効果を上げるためのカリキュラムのあり方を巡る議論をふまえて、教育研究委員会を中心に、より良いカリキュラムを編成するための検討を継続して行っている。

2008～2011年度の開講科目、履修年次、担当教員については、別紙1[開講科目担当表]に記載するとおりであるが、各年度のカリキュラムの改訂状況は次のとおりである。なお、各年度の開講科目担当表は、それぞれの年度の履修要綱に掲載されている(2011年度の開講科目担当表は、2011年度履修要綱40頁以下に掲載されており、法科大学院ホームページよりダウンロードできる)。

[各年度のカリキュラム改訂の状況]

2008年度	<ul style="list-style-type: none"> ・法律実務基礎科目として「会社法と実務」「応用訴訟実務」「要件事実」(各2単位)を新規開講 ・その他科目として「法と実務入門」(1単位)、「Law and Practice of International Business Transactions」(1単位)を新規開講
2009年度	<ul style="list-style-type: none"> ・その他科目として「Economic Torts」(2単位)を開設(当年度のみ) ・展開・先端科目の「産業廃棄物処理」(2単位)を廃止(地球環境学専攻開講科目) ・展開・先端科目として「地球環境条約論」(2単位)を新規開講(地球環境学専攻開講科目)
2010年度	<ul style="list-style-type: none"> ・法律実務基礎科目として、「民法と実務」(2単位)を新規開講 ・展開・先端科目として「国際環境法Ⅱ」(2単位)を新規開講(地球環境学専攻開講科目) ・その他科目として「国際商事仲裁」(1単位)、「イスラム法」(1単位)を開設(当年度のみ) ・未修(標準コース)1年次用の法律基本科目として「法学入門」(2単位)を新規開講 ・「要件事実」を「要件事実と法曹実務」(2単位)に名称変更
2011年度	<ul style="list-style-type: none"> ・法律基本科目の「企業取引法」(2単位)を廃止 ・展開・先端科目「地球環境条約論」(2単位)を廃止(地球環境学専攻開講科目) ・展開・先端科目「金融法」(2単位)を新規開講 ・法律実務基礎科目として、「行政法と実務」(1単位)及び「環境と実務」(1単位)(2011年度は休講)を新規開講 ・派遣裁判官による法律実務基礎科目である「訴訟実務基礎(民事)」(2単位)の配当年次を3年次から2年次に変更

(2)カリキュラムに関する自己点検・評価

①上智大学法科大学院では、中規模校のメリットを生かし、法律基本科目7科目、法律実務基礎科目の必修3科目(法曹倫理、訴訟実務基礎(民事)、訴訟実務基礎(刑事))のほか、選択必修の実務科目(A群、B群)を多数展開し、また、新司法試験選択科目8科目は勿論のこと、その他、数多くの展開・先端科目を開講している。新司法試験選択科目の担当者は、原則としてすべて、法科大学院所属の専任教員あるいは法学部所属の専任教員(兼担教員)である(当該教員が留学・サバティカル等で不在の年度は例外とする)。

学生は充実した実務科目の履修によって、将来の法曹としての実務感覚・実務的視点を養うことが可能となり、かつ、多様な展開・先端科目の履修によって、現代社会に必要とされる広い視野を得ることができる。

とりわけ、上智大学法科大学院の特徴でもある「環境」と「国際」については、大

変充実した科目展開がなされており、環境法関連科目の豊富な科目数は日本随一といえる(法科大学院ホームページの「環境法政策プログラムのご案内」を参照)。また、「国際仲裁・ADR」は、春休み期間中に、長島・大野・常松法律事務所より約20名もの弁護士の協力を得てワークショップ形式で行うもので、他大学法科大学院(東京大学・早稲田大学等)の学生も参加し、大変有意義で贅沢な演習科目となっている。

また、上智大学法科大学院においては、「エクスターンシップ」が充実していることが特徴である。設立当初は、夏休み期間中に、法律事務所のみならず学生を派遣していたが、2008年度以降、官公庁・企業・NPO等にも派遣先を積極的に広げ、春休み期間にも一部派遣するようになってきている。現在では、毎年60名程度の学生が派遣され、実務を体験する貴重な機会を得ている(2012年上智大学法科大学院パンフレット(2011年4月発行)13頁参照)。

そのほかの実務科目も数多く展開することによって、適切なインセンティブの下で、学生たちが法科大学院での学習に有意義に取り組むことができるよう配慮している。

このように、法科大学院のカリキュラムは、設立以来、法律基本科目、展開・先端科目、実務科目等がバランスよく配置されているといえることができるが、さらに、きめ細かい継続的なカリキュラム見直しによって、より良いカリキュラム編成を目指して努力を続けている。

②前掲(1)の表に掲げたカリキュラム改訂は、いずれも、教育研究委員会での慎重な検討の上で、明確な意図をもって実施したものであるが、概ね、狙い通りの効果がみられている。

各種の実務科目の新規開講は、法科大学院教育において理論と実務の架橋をはかる趣旨を徹底しようとする意図によるものである。「法と実務入門」は、1年次から実務的素養を身に付けさせようとするものであり、「応用訴訟実務」は、3年次の仕上げとして訴訟実務を学ぶものである。また、「会社法と実務」等の実務科目については、会社法等を、実務家教員による実務的観点から捉えた授業によって、理論としての知識を実務で生かすことを可能にするものとして、有用である。「要件事実」は、学生・修了生らの要望を反映して新設された実務科目で、2010年度からは「要件事実と法曹実務」と名称を変え、さらに内容を充実させて提供している。

「訴訟実務基礎(民事)」については、設立以来、3年次の履修科目として配置してきたものであるが、2011年度から、2年次の履修科目へと変更することとした。学生からの要望と、全体のカリキュラムのバランスを慎重に検討した結果、履修年次の変更を行ったものであるが、その効果については、今後検証する必要がある。

2-3 進級・修了

(1) 進級・修了認定の要件について

上智大学法科大学院では、大学院学則 21 条の 3、28 条の 2、法科大学院履修規程 4 条、15 条に基づき、修了・進級要件は次のとおりとなっている(2011 年度履修要綱 22 頁以下に掲載)。

① 在学期間	標準コース	3 年
	短縮コース	2 年
② 修得単位数	標準コース	93 単位
	短縮コース	65 単位

修了に必要な単位数の科目間のバランスは以下のとおりである。

標準コース

法律基本科目	
公法系科目	12 単位 (必修)
民事系科目	36 単位 (必修)
刑事系科目	14 単位 (必修)
法律実務基礎科目	6 単位 (必修) 及び 6 単位 (選択必修)
基礎法学・隣接科目	4 単位 (選択必修)
展開・先端科目	12 単位 (選択必修)
法律基本科目以外のすべてから	3 単位 (選択)
計	93 単位

短縮コース

法律基本科目	
公法系科目	6 単位 (必修)
民事系科目	18 単位 (必修)
刑事系科目	8 単位 (必修)
法律実務基礎科目	6 単位 (必修) 及び 6 単位 (選択必修)
基礎法学・隣接科目	4 単位 (選択必修)
展開・先端科目	12 単位 (選択必修)
法律基本科目以外のすべてから	5 単位 (選択)
計	65 単位

なお、進級要件として必要な単位数は以下のとおりである。

1 年次は、必修科目 24 単位

2 年次は、必修科目 20 単位を含む 24 単位

③ GPA 要件

上智大学法科大学院では、2010 年度入学の標準コース生から(短縮コース生は 2011 年度入学者から)、進級・修了要件として、「各年次で所定の成績を修めること」(GPA 要件)を導入することを決定した(大学院学則 21 条の 3、28 条の 2、法科大学院履修規程 4 条、15 条、別表Ⅳ)。

すなわち、2010 年度入学の標準コース生、2011 年度入学の短縮コース生については、各年次の GPA が 1.0 を下回らないことを進級・修了の要件としている。

続いて、2011 年度入学の標準コース生及び 2012 年度入学の短縮コース生からは、各年次の GPA が 1.6 を下回らないことを進級・修了の要件とする履修規程の改正を行った。

進級・修了に必要なとなる GPA 要件については、教育研究委員会・教授会で慎重に審議・検討した結果、二段階で導入することとしたものである。

(2)進級・修了の状況

各年度の進級・修了の状況は以下のとおりである。

2007 年度入学者の 2010 年度末までの在籍及び進級・修了の状況 標準コース (入学者 52 名)

	進級者／修了者	原級留置	小計	年度内の退学者	合計
2007 年度末	46／0	6	52	0	52
2008 年度末	45／0	7	52	0	52
2009 年度末	3／38	8	49	3	52
2010 年度末	4／2	2	8	0	8

短縮コース (入学者 50 名)

	進級者／修了者	原級留置	小計	年度内の退学者	合計
2007 年度末	47／0	0	47	3	50
2008 年度末	0／45	2	47	0	47
2009 年度末	0／0	1	1	1	2
2010 年度末	0／0	1	1	0	1

2008 年度入学者の 2010 年度末までの在籍及び進級・修了の状況 標準コース (入学者 56 名)

	進級者／修了者	原級留置	小計	年度内の退学者	合計
2008 年度末	50／0	4	54	2	56
2009 年度末	50／0	2	52	2	54
2010 年度末	5／43	4	52	0	52

短縮コース (入学者 61 名)

	進級者／修了者	原級留置	小計	年度内の退学者	合計
2008 年度末	60／0	1	61	0	61
2009 年度末	58	2	60	1	61

2010年度末	0	0	0	2	2
---------	---	---	---	---	---

2009年度入学者の2010年度末までの在籍及び進級・修了の状況
標準コース（入学者50名）

	進級者／修了者	原級留置	小計	年度内の退学者	合計
2009年度末	45／0	5	50	0	50
2010年度末	35／0	9	44	1	45

短縮コース（入学者59名）

	進級者／修了者	原級留置	小計	年度内の退学者	合計
2009年度末	58／0	0	58	1	59
2010年度末	55	3	58	0	58

2010年度入学者の2010年度末までの在籍及び進級・修了の状況
標準コース（入学者45名）

	進級者／修了者	原級留置	小計	年度内の退学者	合計
2010年度末	36／0	5	41	4	45

短縮コース（入学者50名）

	進級者／修了者	原級留置	小計	年度内の退学者	合計
2010年度末	48／0	2	50	0	50

2-4 成績評価と到達度の確認

(1) 成績評価基準について

上智大学法科大学院では、成績評価基準を学生にあらかじめ公表して、原則としてそれに基づいて成績評価を行っている。現在の成績評価基準は、2011年度履修要綱9頁に掲載されているが、下記表のとおりである。

成績評価は、おおむね平常点30%、期末試験70%の割合で付されるが、期末試験は、法科大学院独自の複写式答案用紙を用いて実施し（受験した学生が複写された自らの答案を保有）、各教員が「出題の趣旨」を公表することとしている。

各学期に授業担当教員が付した成績状況については、全科目の成績分布一覧表を作成して、教育研究委員会において、総合的な検討を行っている。また、各学期終了後、当該成績分布一覧表を自習室内に掲示することによって、学生への周知も行っている。

なお、個々の学生が成績評価に疑問がある場合については、「成績評価確認願」及び「成績確認再確認願」の制度が設けられている。「成績評価再確認願」は、法科大学院独自の制度として設けられたもので、「成績評価再確認願」が提出された場合には、法科大学院に設けられている成績評価委員会が判断することになっている（2011年度履修要綱10頁）。成績評価の適正さを担保するために、慎重な異議申立て・救済制度が設けられているということができよう。

法科大学院の成績評価等に関する申合せ

2011年改正

(趣旨)

第1条 この申合せは、上智大学法科大学院履修規程第14条第1項及び第2項の規定に基づき、試験の成績評価について一定の基準を示すこと及び教員間の成績評価の平準化を促進することを目的とする。

(成績評価の割合)

第2条 履修学生数が20名以上の科目については、履修学生数に対する成績評価の割合は、おおむね次のとおりとする。

(1) Aの割合は、20%以下とする。

(2) Bの割合は、10%以上30%以下とする。

2 履修学生数が20名に満たない科目についても、前項の基準を考慮して成績評価を行うように努めなければならない。

(成績評価の観点)

第3条 成績評価は、前条の規定の趣旨に則り、絶対評価のみによることなく相対評価の観点を加味して、厳正にこれを実施しなければならない。

(適用範囲)

第4条 第2条の割合は、レポートの提出その他の方法による成績評価にも適用する。

2 科目の性質上、第2条の割合を適用することが妥当でない場合については、別に定める申合せ細則による。

(成績評価基準)

第5条 成績評価は、おおむね平常点30%、期末試験(期末試験に準ずるものとして教員が指定する中間試験を含む。)70%の割合で行う。

2 平常点の評価は、授業への出席・参加、課題への取組み、小テストの成績等による。

(試験時間)

第6条 期末試験の試験時間は、原則として120分間とする。

(申合せの公表)

第7条 この申合せは、法科大学院履修要綱への掲載その他の法科大学院教授会が適当と認める方法により、学生に周知しなければならない。

附則

この申合せは、2006年度前期から適用する。

2009年改正の申合せは、2009年度春学期から適用する。

2011年改正の申合せは、2011年度秋学期から適用する。

法科大学院の成績評価等に関する申合せ細則

1 A群・実務演習科目、B群・実務科目の成績評価割合については、法科大学院の成績評価等に関する申合せ第2条第1項(1)のAの割合を50%以下とし、(2)については適用しないこととする。

2 前項の規定にかかわらず、B群・実務科目の「エクスターンシップ(I, II)」については、合格(P)または不合格(F)で評価する。

(2)到達度の確認について

法科大学院の授業において、学生に対して、到達度として要求する内容をどのように設定するかについては、FDミーティングや各専門分野のFD会議において、検討を進めているところである。各授業の担当教員が設定した「到達度」のシラバスへの記載およびその到達度に学生が到達しているかどうかを適切に測る成績評価のあり方についても、今後議論を詰めていくことが課題となろう。

2-5 教育の充実・改善のための制度—FD活動など—

(1)概要

上智大学法科大学院では、FD委員会を設けて、積極的に活動している。具体的には、毎学期ごとの学生による授業評価アンケート、毎学期のオープン授業(他の教員による授業見学)、FDミーティング(全体会)であり、それ以外にも、各専門分野に分かれてのFD会議も随時行われている。また、毎学期末の在学生ガイダンス、意見交換会等を通して、学生へのフィードバックも行われている。

[2010年度の実施例]

春学期

- ・授業評価アンケート 2010年5月24日(月)～6月5日(土)
- ・オープン授業 2010年5月31日(月)～6月11日(金)
- ・FDミーティング 2010年6月16日(水)12時30分～13時20分
- ・在学生ガイダンス 2010年7月29日(木)

〔1・2年次生対象〕

秋学期に向けての履修ガイダンス 17:15～ 203号室

〔3年次生対象〕

秋学期に向けての履修ガイダンス 17:15～ 208号室

- ・意見交換会 2010年7月29日(木) 18:15～ 2号館5階

秋学期

- ・授業アンケート 2010年11月15日(月)～26日(金)
- ・オープン授業 2010年11月22日(月)～12月2日(木)
- ・FDミーティング 2010年12月15日(水)12時30分～13時20分
- ・在学生ガイダンス 2011年2月2日(水)

〔1・2年次生対象〕

次年次に向けての履修ガイダンス 17:15～18:00 203号室

〔3年次生対象〕

修了式及び修了後に向けてのガイダンス 14:45～15:45 208号室

3年生市谷研修室見学(希望者のみ) 16:00～

- ・意見交換会 2011年2月2日(水) 18:15～ 2号館5階

(2) 授業アンケート

毎学期の授業期間中に、授業時間の最初10分程度を用いて、授業に出席している学生全員に対する無記名の授業アンケートを実施している。法科大学院の授業は、ほとんど全員が出席しているため、回答率は、ほぼ100%に近い。授業アンケートの時期は、アンケートの結果を各教員が後半の授業に反映できるように、各学期半ばに設定している。

授業アンケートは、学生が回収して事務室に届けることとし、自由記述欄についても事務室において入力し、筆跡等を担当教員が見ることがないように処理することとしている。以上のことを学生に周知することによって、学生が授業アンケートの自由記述欄において、自由に意見を記述することができるよう配慮している。

授業アンケートの結果は、FDミーティングにおいて、FD委員会より報告され、授業担当教員全員で審議・検討を行う。また、毎学期末の在学生ガイダンスにおいて、学生に対して、授業アンケートの結果を配布し(別紙2[授業アンケート結果]に、各年度の表データを掲載)、FD委員長からの説明がなされている。

(3) オープン授業

毎学期の後半に2週間のオープン授業期間を設け、すべての授業を他の教員が相互に見学できるようにしている。オープン授業期間に見学した教員は、原則として、授業見学の概要と見学者のコメントを書面で法科大学院に報告することとなっている。それらの報告書は、FDミーティングの際に、FD委員会より報告され、活用されている。

FD委員会では、2009年度からすべての授業について必ず1名以上の教員が授業見学を行うように、見学する授業科目を各教員に指定しているが、それ以外の科目の参観も自由である。

専門が異なる教員や実務家教員が授業見学することも有益であり、法科大学院全体として、授業の活性化につながっていると見えよう。

(4) FDミーティング

毎学期の授業アンケート及びオープン授業の結果を受けて、毎学期の後半に、授業担当教員の参加によるFDミーティングを実施している。FDミーティングでは、FD委員会より、授業アンケート結果やオープン授業報告結果が報告され、授業の充実・改善に向けて、毎回、活発な議論がなされている。FDミーティングには、法科大学院所属の専任教員だけでなく、法学部に所属して兼任教員として法科大学院の授業を担当している教員も参加するため、全体として、漏れなく授業改善の効果が得られることになる。

このほか、各専門分野ごとに教員が集まって、授業科目間の連携の強化等教育内容の改善について検討するFD会議も随時行われている。

FDミーティングの結果を受けて、次年度以降のカリキュラム改訂などが提案されることもあり、FD活動は、有効に機能しているといえることができる。

(5) ガイダンス、意見交換会、ご意見Box等

上智大学法科大学院では、毎学期末、定期試験期間最終日に、在学生ガイダンスを行うとともに、意見交換会を実施し、教員と学生との懇談の機会を設けている。在学生ガイダンスでは、教育研究委員会より履修ガイダンスを行うとともに、FD委員会による授業アンケート結果の報告も行っている。また、意見交換会では、原則としてすべての授業担当教員が参加するため、学生が教員に対して様々な質問、意見を述べるができる機会となっている。意見交換会の場で、学生より授業・施設等の改善の要請がなされる場合もあり、広く意見を聴取する有用な場となっているといえよう。

また、2009年2月より、下記のとおり「ご意見Box」が設置されており、匿名での学生からの声が容易に執行部に届くようになった。実際にご意見Boxに寄せられた意見をふまえて、施設の改善等も行われている。

このように、法科大学院では、風通し良く、学生からの要望を聴くことができるような体制を整えており、教育の充実・改善のために有効に機能していると考えている。

法科大学院御意見 BOX の設置について

このたび、本法科大学院をより良いものにしていくための建設的なご提案やご意見を継続的に受け付けるため、法科大学院意見 BOX を設置することにしました。

- ・BOX は2号館12階のエレベーター前のメール・ボックスです。
- ・様式は自由です。記名、匿名も自由です。
- ・いただいたご提案・ご意見は、原則として、院長、教育研究委員長、学生生活委員長が拝見します。なお、必要に応じて関連する教職員に内容を通知する場合があります。
- ・本BOX を利用されたことにより、学生の皆さんには如何なる不利益も生じません。
- ・いただいたご提案・ご意見に対する個別の回答は行いません。もし、個別の回答が必要な場合には、本BOX を利用するのではなく、個別に担当教員や法科大学院事務室にご相談ください。

2009年2月2日

第3章 入試制度・状況

3-1 入学定員・出願方法・他学部卒・社会人・外国語特別枠

法科大学院（法学研究科法曹養成専攻）では、2010年度入試までは、100名を入学定員とし、標準（3年制）コース50名、短縮（2年制）コース50名を募集していた。2011年度入試から、入学定員を90名とする定員削減を行ったため、標準（3年制）コース40名、短縮（2年制）コース50名を募集することとなった。出願方法は、標準（3年制）コース又は短縮（2年制）コースを選択して出願するほか、両コースを併願することも認めている。また、入学定員100名ないし90名中、他学部及び社会人の入学者が3割を下回らないように選考している。さらに、特に外国語能力に優れた法曹を養成することも重要であるとの趣旨から、外国語特別枠を設けている。この特別枠は、標準（3年制）コースでは50名（2011年度より40名）中3割程度、短縮（2年制）コースでは50名中1割程度を限度としている。

3-2 入学試験

(1)実施時期

毎年9月に、第1次試験（筆記試験）と第2次試験（面接試験）を実施している。

(2)第1次試験

標準（3年制）コースは、一般論文試験（1,000字以内）（60分）を行う。

短縮（2年制）コースは、2010年度入試までは、一般論文試験（1,000字以内）（60分）と、法律論文試験（公法、民事法、刑事法）を行っていた。法律論文試験においては、公法は、憲法・行政法の分野を対象とし、試験時間は60分、民事法は、民法・商法・民事訴訟法の分野を対象とし、試験時間は90分、刑事法は、刑法・刑事訴訟法の分野を対象とし、試験時間は60分であった。その後、2011年度入試から、短縮（2年制）コースについては、一般論文試験を廃止し、法律論文試験の試験時間を十分にとるべく、試験科目・試験時間の変更を行った。このような試験制度の変更によって、法律論文試験に余裕をもたせることができ、十分な審査を行うことが可能になった。2011年度入試では、公法（憲法・行政法）が試験時間80分、刑事法（刑法・刑事訴訟法）が試験時間80分、民事法（民法・民事訴訟法・商法）が試験時間120分となっている。

2010年度までの法科大学院入試 第1次（筆記）試験科目および時間割

・標準（3年制）コース

時限	試験時間	試験科目	時間	配点
1	10:00～11:00	一般論文試験	60分	100

・短縮（2年制）コース

時限	試験時間	試験科目	時間	配点
1	10:00～11:00	一般論文試験	60分	100
2	11:30～12:30	法律論文試験（公法）	60分	60
3	14:00～15:30	法律論文試験（民事法）	90分	90
4	16:00～17:00	法律論文試験（刑事法）	60分	60

2011年度法科大学院入試 第1次（筆記）試験科目および時間割

・標準（3年制）コース

時限	試験時間	試験科目	時間	配点
1	9:40～10:40	一般論文試験	60分	100

・短縮（2年制）コース

時限	試験時間	試験科目	時間	配点
2	11:10～12:30	法律論文試験（公法）	80分	60
3	13:40～15:00	法律論文試験（刑事法）	80分	60
4	15:30～17:30	法律論文試験（民事法）	120分	90

・併願

時限	試験時間	試験科目	時間	配点
1	9:40～10:40	一般論文試験	60分	100
2	11:10～12:30	法律論文試験（公法）	80分	60
3	13:40～15:00	法律論文試験（刑事法）	80分	60
4	15:30～17:30	法律論文試験（民事法）	120分	90

(3)第2次試験

第1試験合格者について、受験者ごとの個別の面接試験を行っている。

(4)入学者選抜方法

標準（3年制）コースについては、一般論文試験の成績、適性試験の成績及び必須提出書類の審査により、第1次合格者を決定する。第2次試験では、面接試験結果と任意提出書類による評価を行い、第1次試験の成績と合わせて総合審査し、最終合格者を決定する。

短縮（2年制）コースについては、一般論文試験の成績（2011年度からは廃止）、法律

論文試験の成績、適性試験の成績及び必須提出書類の審査により、第1次合格者を決定する。第2次試験では、面接試験結果と任意提出書類による評価を行い、第1次試験の成績と合わせて総合審査し、最終合格者を決定する。

なお、短縮(2年制)コースにおいては、法律論文試験は、法律基本科目7科目について、既修者認定の意味も有するものである。本法科大学院では、従来から法律基本科目7科目すべてについて論文式試験(一部の科目で選択式等の試験形式で出題することもある)を行っているが、今後は、既修者認定の意味を有することをさらに明確にして、法律論文試験を適切に行っていくことが求められよう。

(5)入学予定者のための導入セミナー

上智大学法科大学院では、2011年度入学者から、下記のとおり入学予定者のための導入セミナーを行うこととした(2011年2月～3月)。2011年は、2月に2回、3月に1回実施する予定であったが、3月については東日本大震災の翌日であったため延期とした。

4月の入学時からスムーズに授業に入る準備のための導入セミナーで、遠方に住んでいる入学予定者もいるため、参加は任意としているが、2011年2月の実施日には、多くの入学予定者が参加し、入学者に行ったアンケートの結果でも概ね好評であった。2012年度入試でも引き続き実施する予定である。

〔入学予定者用導入セミナー〕

2011年2月19日(土) 12:30～17:15

法学入門、憲法・民法・商法(各科目教員)

2011年2月26日(土) 12:30～17:15

刑法・行政法・民事訴訟法・刑事訴訟法(各科目教員)

2011年3月12日(土) 12:30～15:45

修了生弁護士による導入セミナー

* 3月12日に予定していたセミナーは、東日本大震災の影響で、実際には4月9日(土)に行った。

3-3 入試結果の状況

上智大学法科大学院への入学志願者数は、下記表のとおりである。当初から、数多くの志願者を集められており、倍率は高い状況であったが、最近の法科大学院志願者全体の減少(適性試験受験者の減少)の影響から、受験者数は減少傾向にある。ただし、2010年9月に実施された2011年度入試で、短縮(2年制)コースについて、一般論文試験を廃止したところ、志願者数が増加する状況がみられた。

各年度入試における合格者数、他学部卒・社会人及び外国語特別枠合格者数などは以下の表のとおりである。

2008年度入学試験状況

志願者・受験者・合格者数(人) 受験区分	定員	志願者数	受験者数	第1次試験合格者数	第2次試験受験者数	最終合格者数	入学者数
標準(3年制)コース	50	927	822	321	240	104	56
短縮(2年制)コース	50	702	581	256	209	103	61
合計	100	1629	1403	577	449	207	117

	定員	合格者数	(内他学部卒+社会人)	(内外国語特別枠)
標準(3年制)コース	50	104	50	23
短縮(2年制)コース	50	103	33	11
合計	100	207	83	34

2009年度入学試験状況

志願者・受験者・合格者数(人) 受験区分	定員	志願者数	受験者数	第1次試験合格者数	第2次試験受験者数	最終合格者数	入学者数
標準(3年制)コース	50	709	603	325	241	100	50
短縮(2年制)コース	50	683	495	244	193	102	59
合計	100	1392	1098	569	434	202	109

	定員	合格者数	(内他学部卒+社会人)	(内外国語特別枠)
標準(3年制)コース	50	100	44	19
短縮(2年制)コース	50	102	28	9
合計	100	202	72	28

2010年度入学試験状況

志願者・受験者・合格者数（人）受験区分	定員	志願者数	受験者数	第1次試験合格者数	第2次試験受験者数	最終合格者数	入学者数
標準（3年制）コース	50	482	445	325	270	86	45
短縮（2年制）コース	50	487	406	236	193	94	50
合計	100	969	851	561	463	180	95

	定員	合格者数	（内他学部卒＋社会人）	（内外国語特別枠）
標準（3年制）コース	50	86	44	32
短縮（2年制）コース	50	94	24	9
合計	100	180	68	41

2011年度入学試験状況

志願者・受験者・合格者数（人）受験区分	定員	志願者数	受験者数	第1次試験合格者数	第2次試験受験者数	最終合格者数	入学者数
標準（3年制）コース	50	380	319	237	199	73	37
短縮（2年制）コース	40	569	442	302	257	98	56
合計	90	949	761	539	456	171	93

	定員	合格者数	（内他学部卒＋社会人）	（内外国語特別枠）
標準（3年制）コース	50	73	33	12
短縮（2年制）コース	40	98	19	7
合計	90	171	52	19

- * 上表の「志願者」「第一次受験者」「第一次合格者」「第二次受験者」には3年制コース・2年制コースの併願者を延べ人数で記載している。なお、「最終合格者」は、併願者を両コースいずれかで決定しているため、実人数で記載している。
- * 「入学者」には補欠繰上げによる手続者を含む。

なお、入試結果については、毎年度4月頃に作成し、広く一般に配布する法科大学院パンフレットにおいて、志願者・受験者・合格者数および受験者・合格者の各得点データを記載し、公表している。

第4章 教育の成果

4-1 新司法試験の結果

上智大学法科大学院修了生の新司法試験の結果は、以下のとおりである(毎年度、新司法試験結果については、法科大学院ホームページ上で公表している)。年によって変動はあるが、本法科大学院修了生の新司法試験の合格者数は、概して、毎年40～50名程度である。2010年度新司法試験までの累計で、本法科大学院から180名の新司法試験合格者を輩出しており、法曹養成機関としての一定の役割を果たしているといえるが、さらに多くの新司法試験合格者を出すことができるよう教職員、修了生OB・OGが一体となって努力していきたい。

新司法試験合格者の上智大学法科大学院在学中の学内成績(GPA)をみると、きわめて明確な相関関係がみられる。在学生に対しては、新司法試験合格者の在学時学内成績との相関関係表(匿名化处理したもの)を自習室内に掲示して、情報提供を行っているので、法科大学院での授業・試験が、新司法試験合格のために重要であるとの認識は、教員・学生間で広く共有されている。

各年度における合格者数、合格率(2010年10月現在)

	コース	受験者	合格者	合格率
平成18年度 (2006年度)	短縮	51	17	33%
	標準	—	—	—
	小計	51	17	33%
平成19年度 (2007年度)	短縮	69	31	45%
	標準	25	9	36%
	小計	94	40	43%
平成20年度 (2008年度)	短縮	79	39	49%
	標準	41	11	27%
	小計	120	50	42%
平成21年度 (2009年度)	短縮	83	26	31%
	標準	61	14	23%
	小計	144	40	28%
平成22年度 (2010年度)	短縮	88	26	30%
	標準	80	7	9%
	小計	168	33	20%

各年度修了生の累積合格者数、合格率 (2010年10月現在)

	コース	修了者数	累積合格者数	合格率
平成18年3月修了 (17年度修了)	短縮	52	33	63%
	標準	—	—	—
	小計	52	33	63%
平成19年3月修了 (18年度修了)	短縮	44	32	73%
	標準	34	14	41%
	小計	78	46	59%
平成20年3月修了 (19年度修了)	短縮	55	36	65%
	標準	47	10	21%
	小計	102	46	45%
平成21年3月修了 (20年度修了)	短縮	48	19	40%
	標準	45	13	29%
	小計	93	32	34%
平成22年3月修了 (21年度修了)	短縮	41	19	46%
	標準	58	4	7%
	小計	99	23	23%

4-2 進路状況

学生の修了後の進路については、情報収集に努めているが、必ずしも全員について把握できているわけではない。新司法試験を受験して法曹になる者のほか、民間企業、官公庁などへの就職など法曹以外の進路をとる修了生もみられている(法科大学院ホームページ上の「修了生進路状況」を参照)。

2010年度から法科大学院の独自の取組みとして、L-Box(Sophia Law Box)というWebサイトを構築して、修了生全員にIDを付与して、就職情報や法科大学院からの各種情報を発信するサイトを作り、修了生とのつながりを深める施策を行っている。今後は、さらに修了生の就職支援、進路把握のために努力していきたい。

法科大学院修了生の就職状況(進路別人数データ)は、上智大学法科大学院ホームページで公開している。

第5章 学生生活・福利厚生

5-1 授業料・奨学金等

(1) 授業料

上智大学法科大学院では、私立大学でありながら国公立大学に迫る低額な学費設定をして、多くの可能性のある有為な人材に門戸を開いている。わが国におけるもっとも高度な法曹養成教育機関である法科大学院の目的は、高度に専門化し、複雑化する現代社会に生起するさまざまな紛争事件に的確に対応できる多様なバックグラウンドを持った有為な人材を法曹人として養成することにあつた。上智大学では、法科大学院構想において示された理念が理念として終わることがないように、経済的な理由から、多くの可能性のある有為な人材が、法曹への道を閉ざされることのないように授業料設定においても最大限の配慮を施している。

2011年度 法学研究科法曹養成専攻納付金

(単位：円)

	2011年度入学者		2010年度入学者		2009年度入学者		2008年度以前入学者		摘要
	標準(3年制)コース	短縮(2年制)コース	標準(3年制)コース	短縮(2年制)コース	標準(3年制)コース	短縮(2年制)コース	標準(3年制)コース	短縮(2年制)コース	
入学金	270,000	270,000	-	-	-	-	-	-	入学の際のみ
授業料	863,000	863,000	863,000	863,000	863,000	863,000	863,000	863,000	年額(注1)
施設設備費	220,000	220,000	220,000	220,000	220,000	220,000	220,000	220,000	年額
実験実習研究費	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	年額(注2)
連絡通信費 (消費税等込)	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300	年額
小計	1,411,300	1,411,300	1,141,300	1,141,300	1,141,300	1,141,300	1,141,300	1,141,300	
同窓会積立金	20,000	20,000	-	-	-	-	-	-	入学の際のみ
学生健康保険互助組合費	2,500	2,500	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	年額(注3)
学生教育研究災害傷害保険料	8,900	5,950	-	-	-	3,050	3,050	3,050	(注4)
小計	31,400	28,450	2,000	2,000	2,000	5,050	5,050	5,050	
合計	1,442,700	1,439,750	1,143,300	1,143,300	1,143,300	1,146,350	1,146,350	1,146,350	

(注1) 当分の間、翌年次以降の授業料については、毎年、本学の入件費の増加率および国庫補助金(私立大学等経常費補助金)の増減の額に応じて、前年度の授業料の額を改定する。
 (注2) 翌年次以降の実験実習研究費は、毎年、前年度の実験実習研究費の額に物価上昇率(都消費者物価指数のうち光熱水費の平均)を乗じた額を加算した金額とする。
 (注3) 学生健康保険互助組合費の2年次以降の年額は、2,000円となる。
 (注4) 学生教育研究災害傷害保険料(法科大学院学生教育研究賠償責任保険を含む)については、当初納入した金額に対応する保険期間を過ぎて在学する場合、1年毎に徴収する。保険料1年間 3,050円

なお、(財)日本国際教育支援協会が保険料の改定を検討しているため、改定された場合は、改定内容を反映させることとする。

(2) 奨学金

国公立大学に迫る低額な学費設定といえども、なお経済的な理由により法科大学院での修学が困難な学生を援助するため、上智大学法科大学院では、さまざまな奨学金制度を設けている。

入学前に給付が決定する奨学金として、上智大学第3種奨学金(フランシスコ・スアレス奨学金)と上智大学大学院新入生奨学金を用意している。また、入学後に出願し、

給付が決定する奨学金として、上智大学第2種奨学金と上智大学研究補助奨学金を用意している。

具体的な内容と実績は、以下のとおりである。

① 上智大学第3種奨学金（フランシスコ・スアレス奨学金）

本学法曹養成専攻を第一志望とし受験し、合格した者の中できわめて優秀な者に対して、入学年度のみ授業料相当額を給付するものである。なお、2010年度より、入学年度のみ授業料半額相当額、授業料3分の1相当額のいずれかを給付することとし、合計10名を採用している。研究科の推薦による採用のため、学生による出願は不要となっている。採用人数は、2007年度3名、2008年度3名、2009年度3名、2010年度9名（1名は、入学後に休学により採用取消し）、2011年度10名である。

② 上智大学大学院新入生奨学金

本学大学院を第一志望として受験し、合格した者の中で、経済的理由により入学が極めて困難で、大学の成績がきわめて優秀な者に対して、学資金の一部、具体的には授業料相当額、授業料半額相当額、授業料3分の1相当額のいずれかを給付している。採用人数は2007年度4名、2008年度2名、2009年度1名、2010年度0名、2011年度1名（春学期現在）である。

③ 上智大学第2種奨学金

学業成績が良好であるにもかかわらず、経済的な理由により学業継続が困難であると認められる者に、学資金の一部、具体的には授業料相当額、授業料半額相当額、授業料3分の1相当額のいずれかを給付している。採用人数は、2007年度22名、2008年度23名、2009年度16名、2010年度18名、2011年度23名（春学期現在）である。

④ 上智大学研究補助奨学金

本学大学院に在籍している正規生に、研究の充実と人材の育成に資するため研究費の一部として支給するものである。採用人数は、2007年度の198名、2008年度210名、2009年度221名、2010年度199名、2011年度170名（春学期現在）である。

その他、人物、学業ともに優れ、かつ健康であって経済的理由により修学困難な者については、貸与の奨学金であるため、修了（退学）後に返還する必要があるものの、日本学生支援機構の奨学金がある。

5-2 施設・福利及び厚生

(1) 施設

自然豊かな静かな環境の中で教員と学生が起居を共にし、思索、討議、学習、談話をしたり、人格的接触を図りながら、密度の深い人生経験や人間形成を目指したりすることを目的とした施設として、秦野セミナーハウス及び軽井沢セミナーハウスがある。正規の授業で得た知見をより深めるために、あるいはさらなる親睦を深めるために利用されている。

(2) 学生相談

上智大学では、カウンセリングセンターを設けおり、学生生活において出会うさまざまな問題を専門のカウンセラーと話し合い、具体的な対処・解決方法を見出している。学業、人間関係、性格、将来の進路や職業、迷惑行為、心身の健康等、学生生活全般にわたる個人的な相談のほか、グループでの相談にも応じ、自己理解を深めるためのワークショップも行っている。

また、法科大学院独自のものとしては、学生生活委員会を設置し、学生が学業や人間関係を中心としたさまざまな問題や悩みを相談できる体制を整えており、随時、学生からの相談を受け付けている。

(3) 健康相談

保健センターにおいて、年1回の定期健康診断はもちろんのこと、内科医師による内科相談（月、水、金）及び、精神科医師による精神保健相談（火、水、金）のほか、予約制ではあるが、摂食障害・循環器・婦人科等の専門医による専門保健相談、栄養食事指導なども行っている。また、保健センターでは、健康相談や応急処置、病院の紹介等も行っている。

(4) セクシャルハラスメント対策

上智大学では、公正で安全な学生生活環境を保障すべく、セクシャルハラスメント防止委員会を設け、セクシャルハラスメント防止に努めている。

(5) 学生金庫・アルバイト紹介

学生が、緊急にお金を必要とするときに、最高10,000円を限度に無利子にて1ヶ月貸し付ける制度を用意している。

また、アルバイトの紹介についても、学生センターによる一般の紹介（家庭教師、上智大学を会場とした求人、官公庁からの求人）のほか、法科大学院独自の法務関係にかかわるアルバイトの紹介も行っている。

(6) 法科大学院研修生制度(市谷キャンパス研修施設)

法科大学院修了後、新司法試験受験までの間、修了生が落ち着いて勉強できるスペースとして、上智大学市谷キャンパス内に、研修室を用意している(有料)。市谷キャンパスは、四谷キャンパスから徒歩10分の距離にあり(市谷駅から徒歩5分)、閑静な環境の

中にある。研修室には、個人ロッカーや関連書籍等が備え付けられているほか、市谷キャンパス内には、グループ学習などに利用できる教室もある。修了生に対しても、このように手厚い学習スペースを用意して、修了後の学習環境を整えている。

5-3 学生に対する学習支援体制

(1) 修了生弁護士によるチューター制度

2009年12月より、在学生の学習上の質問に対して答えたり、学習相談に応じるために、週1回程度、修了生の0B・0G弁護士が来校するチューター制度を導入している。2010年度秋学期からは、学年別にチューターを配置して、学生が学習相談に来やすいような体制を整えた。また、各学期にチューターと教員との間での意見交換会を実施し、学生の状況を共有し、今後のチューターによる学習支援をより効果的なものとするよう審議・検討を行っている。

学生からは、気軽に相談できるチューターに期待する声が多く聞かれ、今のところ、有効に機能しているといえる。

(2) 教員によるクラス担任制度

上智大学法科大学院では、従来から、教員と学生との距離が近く、同じ2号館内に、法科大学院の自習室・教室(2F)と教員の研究室(12F~14F)があることもあって、学習上の質問等についても気軽に教員に尋ねることができる状況にあった。2010年度秋学期から、さらにきめ細かい学習指導を行うために、2年次生および3年次生について教員による担任制を導入することとした。3年次生については、学生10名程度につき教員1名が担任となるクラス担任制、2年次生については、学生15名程度につき教員1名が担任となるクラス担任制が設けられた。現段階では、1年次生については、定員40名と学生数が少なく、必修科目の教員が手厚く指導することが可能であるため、教員担任制をとることは考えていないが、今後さらに検討を進める予定である。

教員によるクラス担任制導入によって、きめ細かい学生指導の枠組みが整ったので、今後は、クラス担任の役割について検討して、さらに有意義なものとしていくことが課題となろう。

5-4 就職支援体制

上智大学法科大学院では、在 student および修了生が、希望する進路について早いうちから具体的にイメージできるようにし、また、適時に就職活動を行うことを可能とするべく、法科大学院専任教員で構成される就職委員会が、在校生および修了生に向けて就職関連情報を随時提供し、また、セミナー等を開催している。

また、全学向けの就職サポートを行う上智大学キャリアセンターとも連携し、進路・就職相談等、キャリアセンターが提供する各種サービスを法科大学院の在 student、および、修了生が利用できる体制が整えられている。

従来、修了生の多くは、新司法試験を経て法曹資格を得て、法律事務所に就職するこ

とを希望しており、就職委員会では、新司法試験の直後に法律事務所への就職活動のためのセミナーを毎年開催してきた。しかし、進路における近年の傾向として特筆すべき点は、新司法試験を経て法曹資格を取得するかどうかに関わらず、修了生が企業や官公庁に就職するなど、修了生の進路の多様化が進んでいるということであり、就職委員会、および、キャリアセンターではそのような傾向に応じた就職サポート体制を整えている。

最近では、就職委員会の主催で、次のようなセミナーを開催している。

■ 就職活動セミナー（毎年5月（新司法試験の終了後）に実施）

弁護士事務所への就職活動を中心に、修了生弁護士からアドバイス等を行う。

■ 公務員関係の就職セミナー（2010年12月に実施）

衆議院・参議院法制局の試験や、国家公務員試験について、修了生（衆議院法制局勤務）や人事院担当官を招いて、説明・案内を受け、質疑の機会を設ける。

■ 企業関係の就職セミナー（2010年11月、2011年2月・3月に実施）

企業に就職した複数の修了生や企業人事担当者を招いて、業務紹介や就職活動のアドバイス等を受け、質疑の機会を設ける。

また、法科大学院またはキャリアセンターに届く法科大学院生（修了生）向けの法律事務所や企業等の求人情報について、随時、学内掲示板（L-Box等）にて案内している。

さらに、企業等へ就職することを希望する在学生および修了生について、随時、人材コンサルタント会社に相談できる体制を整えている。

5-5 障害のある学生に対する支援

(1) 修学のために必要な基本的な施設及び設備の整備充実

上智大学では、学内の全てのエレベーターには点字案内板が、メインストリートには誘導用点字ブロックが設置されている。車椅子の学生のためのスロープは8つの施設の入口に付設され、車椅子対応可能エレベーター、車椅子専用トイレも整備されている。

中でも、法科大学院生が主に利用している2号館は、上記の車椅子用スロープ、車椅子及び視覚障害者対応エレベーターが設置されているほか、車椅子専用トイレが各階で利用できるようになっている。また、もっとも多く授業で使用される2つの教室には、特に車椅子用の座席を設けている。この2号館は東京都「福祉のまちづくり条例」に基づく整備基準の適合証を受けており、バリアフリーを実現した施設である。

(2) 修学上の特別措置などの配慮について

上智大学法科大学院に2008年度に入学した学生のうち1名が、聴覚に障害をもっていたため、上智大学では、学生センターと法科大学院事務室が一体となって、さまざまな修学上の措置をとり、当該学生が他の学生と同等の教育を受けることができるような配慮を行った。具体的には、各授業及びガイダンス等を含めたすべての法科大学院行事について、全学の学生からボランティアを募り、ノートテイクによって講義通訳をする学生ボランティアを2名ずつ付け、当該学生の授業の履修等に支障がないような体制を整

えた。またノートテイカーが必ずしも法律用語に詳しくない場合もあるため、法科大学院の各クラスで、同一の授業を履修している他の法科大学院生が、順番で自らとった講義ノートのコピーを当該学生に提供する支援体制を整えた。ノートテイカー役の学生ボランティアの募集、毎日の授業にノートテイカーが同席できるようスケジュールを調整して各授業に割り当てるなどの支援、及び、同一の授業をとっている法科大学院生の講義ノートコピーの順番割当て・支援体制などは、学生センター及び法科大学院事務室の連携によって、きわめて円滑に行うことができた。その結果、当該学生は、既定の3年間の修学によって本法科大学院を修了している。

別紙1 [開講科目担当表]

2008 年度開講科目担当表

[07 年次生以降]

※短縮 (2 年制) コースの新入生の年次は, 2 年次とする。

※担当者欄の*印は兼任講師 (非常勤講師), 他は兼任講師を示す。

登録 番号	授業科目名	単位			開 講 期	担 当 者 氏 名	履 修 年 次	備 考
		必 修	選 必	選 択				
	[法律基本科目]							
LWS10100	憲法基礎	4			春	矢 島 基 美	1	
LWS10200	行政法基礎	2			秋	古 城 誠	1	
LWS10300	民法基礎 I	4			春	加 藤 雅 信	1	
LWS10400	民法基礎 II	4			秋	奥 富 晃	1	
LWS10500	民法基礎 III	2			秋	西 希代子	1	
LWS10600	商法基礎	4			秋	吉 川 栄 一	1	
LWS10700	民事訴訟法基礎	4			秋	田 頭 章 一	1	
LWS10800	刑法基礎	4			春	町 野 朔	1	
LWS10900	刑事訴訟法基礎	2			秋	岩 瀬 徹	1	
LWS20100	憲法	2			春	高 見 勝 利	2	A クラス、 公法 I と合併科目 } 同内容, 注 1
LWS20101	憲法	2			春	高 見 勝 利	2	
LWS20200	行政法	2			秋	小 幡 純 子	2	A クラス、 公法 II と合併科目 } 同内容, 注 1
LWS20201	行政法	2			秋	小 幡 純 子	2	
LWS20300	民法 I	4			春	辻 伸 行	2	A クラス } 同内容, 注 1
LWS20301	民法 I	4			春	辻 伸 行	2	
LWS20400	民法 II	4			春	佐 藤 岩 昭	2	A クラス } 同内容, 注 1
LWS20401	民法 II	4			春	佐 藤 岩 昭	2	
LWS20500	商法	4			秋	小 塚 荘 一 郎	2	A クラス } 同内容, 注 1
LWS20501	商法	4			秋	小 塚 荘 一 郎	2	
LWS20600	民事訴訟法 I	2			春	原 強	2	A クラス } 同内容, 注 1
LWS20601	民事訴訟法 I	2			春	原 強	2	
LWS20700	民事訴訟法 II	2			秋	原 強	2	A クラス } 同内容, 注 1
LWS20701	民事訴訟法 II	2			秋	原 強	2	
LWS20800	刑法	2			秋	町 野 朔	2	A クラス } 同内容, 注 1
LWS20801	刑法	2			秋	町 野 朔	2	

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者		履修年次	備考
		必修	選必	選択		氏名			
LWS20900	刑事訴訟法Ⅰ	2			春	長沼 範良		2	Aクラス } 同内容、注1
LWS20901	刑事訴訟法Ⅰ	2			春	長沼 範良		2	
LWS21000	刑事訴訟法Ⅱ	2			秋	長沼 範良		2	Aクラス } 同内容、注1
LWS21001	刑事訴訟法Ⅱ	2			秋	長沼 範良		2	
LWS30100	公法(総合)	2			春	越智 敏裕 *青柳 幸一		3	輪講、Aクラス } 同内容、注1
LWS30101	公法(総合)	2			春	越智 敏裕 *青柳 幸一		3	
LWS30200	民事法(総合)	2			春	伊集院 功信 加藤 雅		3	同時担当、Aクラス } 同内容、注1
LWS30201	民事法(総合)	2			春	伊集院 功信 加藤 雅		3	
LWS30300	刑事法(総合)	2			春	林 幹人 岩 瀬		3	輪講、Aクラス } 同内容、注1
LWS30301	刑事法(総合)	2			春	林 幹人 岩 瀬		3	
LWS60100	企業取引法 [法律実務基礎科目]			2	春	小塚 莊一郎		3	
LWS21100	法曹倫理	2			春	更田 義彦 岩 瀬 知子		2	輪講、Aクラス } 同内容、注1
LWS21101	法曹倫理	2			春	更田 義彦 岩 瀬 知子		2	
LWS30400	訴訟実務基礎(民事)	2			春	河村 浩		3	Aクラス } 同内容、注1
LWS30401	訴訟実務基礎(民事)	2			春	河村 浩		3	
LWS30500	訴訟実務基礎(刑事)	2			春	更田 義彦 岩 瀬 知子		3	輪講、Aクラス } 同内容、注1
LWS30501	訴訟実務基礎(刑事)	2			春	更田 義彦 岩 瀬 知子		3	
LWS60200	会社法と実務			2	秋	葉玉 匡美		1	} 春学期・秋学期同内容
LWS60201	会社法と実務			2	春	葉玉 匡美		2	
LWS60300	応用訴訟実務			2	秋	葉玉 匡美		3	
LWS60400	要件事実 (A群・実務演習科目)			2	秋	伊集院 功洋 *佐川 聡 *塚本 宏		3	輪講
LWS50100	公共法務演習			2	秋	小高 純子 桑 見勝 *羽 原 勇一		2	輪講

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者	履修年次	備考
		必修	選必	選択		氏名		
LWS50200	企業法務演習		2		春	伊集院 功 小塚 莊一郎	2	同時担当
LWS50300	環境法実務演習		2		秋	北村 喜宣 越智 敏裕	2	同時担当
LWS50400	金融法実務演習		2		春	和仁 亮裕 森下 哲朗 *前田 博	2	同時担当
LWS50500	家庭の法務演習 (B群・実務科目)		2		秋	西 希代子 *水野 靖史	2	同時担当
LWS50600	模擬裁判(民事)		2		秋	更田 義彦 原 強	3	隔週、同時担当
LWS50700	模擬裁判(刑事)		2		秋	更田 義彦 岩瀬 徹 田中 知子	3	同時担当
LWS50800	ネゴシエイション・ロイヤリング		2		春	伊集院 功 森下 哲朗	3	春学期集中講義、輪講
LWS50900	法文書作成		2		秋	更田 義彦 業玉 匡美	3	輪講
LWS51000	リーガルライティング		2		秋	和仁 亮裕 平川 雄士	3	輪講
LWS51100	刑事実務		2		秋	岩瀬 徹 田中 知子	3	輪講
LWS51200	リーガルクリニック		2		春	コーディネータ 岩瀬 徹 コーディネータ 原 強・他	3	同時担当
LWS51201	リーガルクリニック		2		秋	コーディネータ 原 強 コーディネータ 島田聡一郎・他	3	同時担当
LWS51300	エクスターンシップ		2		秋	コーディネータ 町野 朔・他	2・3	『修了要件・履修上の注意』のエク スターンシップの項目を参照
LWS51400	国際仲裁・ADR [基礎法学・隣接科目]		2		秋	伊集院 功 森下 哲朗・他	2・3	秋学期集中講義
LWS51500	比較法		2		秋	滝澤 正	1~3	
LWS51600	英米法		2		春	岩田 太	1~3	
LWS51700	法哲学		2		秋	奥田 純一郎	1~3	
LWS51800	法社会学		2		秋	*長谷川 貴陽史	1~3	
LWS51900	法と経済学 [展開・先端科目] (社会経済法系)		2		秋	他蓬 田 守 弘	1~3	
LWS52000	労働法 I		2		春	森戸 英幸	2・3	

春学期・秋学期同内容、
各クラス定員15名、
注2

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者	履修年次	備考
		必修	選択	選択		氏名		
LWS52100	労働法Ⅱ		2		秋	森戸英幸	2・3	
LWS52200	租税法Ⅰ		2		春	平川雄士	2・3	
LWS52300	租税法Ⅱ		2		秋	平川雄士	2・3	
LWS52400	経済法Ⅰ		2		春	楠茂樹	2・3	
LWS52500	経済法Ⅱ		2		秋	楠茂樹	2・3	
LWS52600	知的財産権法Ⅰ		2		春	駒田泰士	2・3	
LWS52700	知的財産権法Ⅱ		2		秋	駒田泰士	2・3	
LWS52800	倒産処理法		4		秋	田頭章一	2・3	
LWS52900	民事執行・保全法		2		秋	原 強	2・3	
LWS53000	スポーツ・エンタテインメント法		1		春	コーディネータ *道垣内正人・他	2・3	春学期後半, 輪講
LWS53100	医療と法		1		秋	町野 朔 岩田 太 奥田 純一郎	2・3	秋学期後半, 同時担当
	(国際関係法系)							
LWS53200	国際法基礎		2		春	西村 弓	1~3	
LWS53300	国際取引法		2		秋	森下哲朗	2・3	
LWS53400	国際私法		2		春	出口耕自	2・3	
LWS53500	国際家族法		1		秋	出口耕自	2・3	秋学期後半
LWS53600	国際人権法		1		秋	江藤 淳一	2・3	秋学期前半, 注3
LWS53700	国際経済法		2		秋	川瀬 剛志	2・3	
LWS53800	国際取引法の現代的課題		2		春	和仁亮裕	2・3	
LWS53900	国際民事紛争処理		1		春	*道垣内 正人	2・3	春学期前半, 注3
	(環境法系)							
LWS54000	環境法基礎		2		春	桑原 勇進	1~3	
LWS54100	環境法政策		2		春	北村 喜宣	2・3	
LWS54200	環境訴訟		2		春	越智 敏裕	2・3	
LWS54300	企業環境法		2		秋	吉川 栄一	2・3	
LWS54400	国際環境法		1		春	村瀬 信也	2・3	春学期前半, 注3
LWS54500	環境刑法		1		春	町野 朔	2・3	春学期後半
LWS54600	比較環境法		2		秋	*及川 敬貴	2・3	

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者 氏名	履修 年次	備考
		必修	選必	選択				
MGGE7020	自然保護法		2		秋	他島山 武道	2・3	他地球環境学専攻, 注4
MGGE7170	産業廃棄物処理 [その他]		2		春	他中 杉 修身	2・3	他地球環境学専攻, 注4
LWS60500	法と実務入門			1	春	葉 玉 匡 美	1	春学期前半, 注3
LWS60600	Law and Practice of International Business Transactions [研究・論文]			1	秋	コーディネータ 森下哲朗・他	1~3	秋学期前半, 輪講, 注3
LWS60700	自主研究・論文作成			2	秋	町 野 朔	3	
LWS60701	自主研究・論文作成			2	秋	高 見 勝 利	3	
LWS60702	自主研究・論文作成			2	秋	滝 澤 正	3	
LWS60703	自主研究・論文作成			2	秋	吉 川 栄 一	3	
LWS60704	自主研究・論文作成			2	秋	長 沼 範 良	3	
LWS60705	自主研究・論文作成			2	秋	原 強	3	
LWS60706	自主研究・論文作成			2	秋	小 幡 純 子	3	
LWS60707	自主研究・論文作成			2	秋	小 塚 莊一郎	3	

注1. クラス指定あり(標準コース:Aクラス, 短縮コース:Bクラス)。A, Bクラスの指定は, 必ず守ること。

注2. 同一内容であるため, 春・秋学期いずれか1科目を履修すること。

注3. この科目は履修中止できない科目である。

注4. この科目は法科大学院の授業日程では行われないので, 別途確認すること。

2009 年度開講科目担当表

【07 年次生以降】

※短縮（2 年制）コース新入生の年次は、2 年次とする。

※担当者欄の * 印は兼任講師（非常勤講師）、（他）は兼任講師を示す。

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者 氏 名	履修 年次	備 考
		必修	選必	選択				
	[法律基本科目]							
LWS10100	憲法基礎	4			春	矢 島 基 美	1	
LWS10200	行政法基礎	2			秋	越 智 敏 裕	1	
LWS10300	民法基礎 I	4			春	加 藤 雅 信	1	
LWS10400	民法基礎 II	4			秋	奥 富 晃	1	
LWS10500	民法基礎 III	2			秋	西 希代子	1	
LWS10600	商法基礎	4			秋	吉 川 栄 一	1	
LWS10700	民事訴訟法基礎	4			秋	田 頭 章 一	1	
LWS10800	刑法基礎	4			春	町 野 朔	1	
LWS10900	刑事訴訟法基礎	2			秋	*安 村 勉	1	
LWS20100	憲法	2			春	高 見 勝 利	2	A クラス, 公法 I と合同 } 同内容 注 1
LWS20101	憲法	2			春	高 見 勝 利	2	
LWS20200	行政法	2			秋	小 幡 純 子	2	A クラス, 公法 II と合同 } 同内容 注 1
LWS20201	行政法	2			秋	小 幡 純 子	2	
LWS20300	民法 I	4			春	佐 藤 岩 昭	2	A クラス } 同内容 注 1
LWS20301	民法 I	4			春	佐 藤 岩 昭	2	
LWS20400	民法 II	4			春	辻 伸 行	2	A クラス } 同内容 注 1
LWS20401	民法 II	4			春	辻 伸 行	2	
LWS20500	商法	4			秋	小 塚 荘 一 郎	2	A クラス } 同内容 注 1
LWS20501	商法	4			秋	小 塚 荘 一 郎	2	
LWS20600	民事訴訟法 I	2			春	原 強	2	A クラス } 同内容 注 1
LWS20601	民事訴訟法 I	2			春	原 強	2	
LWS20700	民事訴訟法 II	2			秋	原 強	2	A クラス } 同内容 注 1
LWS20701	民事訴訟法 I	2			秋	原 強	2	
LWS20800	刑法	2			秋	町 野 朔	2	A クラス } 同内容 注 1
LWS20801	刑法	2			秋	町 野 朔	2	

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者 氏名	履修 年次	備考
		必修	選択	選択				
LWS20900	刑事訴訟法Ⅰ	2			秋	長 沼 範 良	2	刑事訴訟法 (Aクラス) 前半と合同 注2
LWS21000	刑事訴訟法Ⅱ	2			秋	長 沼 範 良	2	刑事訴訟法 (Aクラス) 後半と合同 注2
LWS21400	刑事訴訟法	4			秋	長 沼 範 良	2	Aクラス, 刑事 訴訟法Ⅰ・Ⅱと合同 } 同内容 注1・注2
LWS21401	刑事訴訟法	4			秋	長 沼 範 良	2	
LWS30100	公法 (総合)	2			春	越 智 敏 裕 *青 柳 幸 一	3	輪講, Aクラス } 同内容 注1
LWS30101	公法 (総合)	2			春	越 智 敏 裕 *青 柳 幸 一	3	
LWS30200	民事法 (総合)	2			春	伊集院 功 加藤 雅 信	3	同時担当, Aクラス } 同内容 注1
LWS30201	民事法 (総合)	2			春	伊集院 功 加藤 雅 信	3	
LWS30300	刑事法 (総合)	2			春	林 幹 人 *安 村 勉	3	輪講, Aクラス } 同内容 注1
LWS30301	刑事法 (総合)	2			春	林 幹 人 *安 村 勉	3	
LWS60100	企業取引法		2		春	小 塚 荘一郎	3	注3
[法律実務基礎科目]								
LWS21100	法曹倫理	2			春	更 田 義 彦 *岩 中 瀬 知 徹	2	輪講, Aクラス } 同内容 注1
LWS21101	法曹倫理	2			春	更 田 義 彦 *岩 中 瀬 知 徹	2	
LWS30400	訴訟実務基礎 (民事)	2			春	*河 村 浩	3	Aクラス } 同内容 注1
LWS30401	訴訟実務基礎 (民事)	2			春	*河 村 浩	3	
LWS30500	訴訟実務基礎 (刑事)	2			春	更 田 義 彦 *岩 中 瀬 知 徹	3	輪講, Aクラス } 同内容 注1
LWS30501	訴訟実務基礎 (刑事)	2			春	更 田 義 彦 *岩 中 瀬 知 徹	3	
LWS60200	会社法と実務		2		秋	葉 玉 匡 美	1	} 春学期・秋学期同内容
LWS60201	会社法と実務		2		春	葉 玉 匡 美	2	
LWS60300	応用訴訟実務		2		秋	葉 玉 匡 美	3	
LWS60400	要件事実		2		秋	伊集院 功 *佐川 聡 洋 *塚本 宏 達 *柳 澤 輝	3	輪講
(A群・実務演習科目)								
LWS50100	公共法務演習	2			秋	高 見 勝 利 *小 幡 純 一 羽 根	2	輪講
LWS50200	企業法務演習	2			春	伊集院 功 小 塚 荘一郎	2	同時担当

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者		履修年次	備考
		必修	選必	選択		氏名			
LWS50300	環境法実務演習		2		秋	北越 喜宣 村智 敏裕	2	同時担当	
LWS50400	金融法実務演習		2		春	和森 亮裕 *前 下田 哲朗 *前 田 博	2	同時担当	
LWS50500	家庭の法務演習 (B群・実務科目)		2		秋	西野 希代子 *野 崎 薫	2	同時担当	
LWS50600	模擬裁判(民事)		2		秋	更田 義彦 *河 西村 明子 *河 村 浩	3	隔週、同時担当	
LWS50700	模擬裁判(刑事)		2		秋	更田 義彦 *岩 中瀬 知子 *岩 瀬 徹	3	同時担当	
LWS50800	ネゴシエーション・ロイヤリング		2		春	伊集院 功 森 下 哲朗	3	春学期集中講義, 輪講	
LWS50900	法文書作成		2		秋	更藤 義彦 *葉 田玉 匡美	3	輪講	
LWS51000	リーガルライティング		2		秋	和平 仁亮 *平 川 裕士 *平 川 雄	3	輪講	
LWS51100	刑事実務		2		秋	田中 知子 *岩 瀬 徹	3	輪講	
LWS51200	リーガルクリニック		2		春	コーディネータ 加藤 雅信 コーディネータ 原 中 千草 *田 端 千輝 *関 木 潤子 *岩 佐 雄大 *橋 本 維大	3	同時担当	
LWS51201	リーガルクリニック		2		秋	コーディネータ 町野 朔 コーディネータ *島 田 聡一郎 *古 前 由子 *細 川 健太郎 *大 田 勝彦 *大 軒 敬子 *大 鶴 健一	3	同時担当	
LWS5131S	エクスターンシップ I		1		春	伊集院 功 和 仁 亮 裕 小 幡 純 子 小 塚 荘一郎 平 川 雄 士 *石 井 禎洋 *権 田 光	2・3	春学期集中講義	
LWS5131A	エクスターンシップ I		1		秋	伊集院 功 和 仁 亮 裕 小 幡 純 子 小 塚 荘一郎 平 川 雄 士 *石 井 禎洋 *権 田 光	2・3	秋学期集中講義	

春学期・秋学期同内容,
各クラス定員15名,
注4

登録番号	授業科目名	単 位			開講期	担 当 者	履修年次	備 考
		必修	選必	選択		氏 名		
LWS5132S	エクスターンシップⅡ		1		春	伊集院 功裕子 和 仁 亮 小 幡 純 小 塚 莊一郎 平 川 雄士 *石井 禎洋 *権田 光	2・3	春学期集中講義
LWS5132A	エクスターンシップⅡ		1		秋	伊集院 功裕子 和 仁 亮 小 幡 純 小 塚 莊一郎 平 川 雄士 *石井 禎洋 *権田 光	2・3	秋学期集中講義
LWS51400	国際仲裁・ADR [基礎法学・隣接科目]		2		春	伊集院 功朗治 森 下 哲捨 *築 瀬 *森 口	2・3	春学期集中講義
LWS51500	比較法		2		秋	滝 澤 正	1～3	
LWS51600	英米法		2		春	岩 田 大	1～3	
LWS51700	法哲学		2		秋	奥 田 純一郎	1～3	
LWS51800	法社会学		2		秋	*藤 田 政 博	1～3	
LWS51900	法と経済学 [展開・先端科目] (社会経済法系)		2		秋	池山 崎 福 寿	1～3	
LWS52000	労働法Ⅰ		2		春	森 戸 英 幸	2・3	
LWS52100	労働法Ⅱ		2		秋	森 戸 英 幸	2・3	
LWS52200	租税法Ⅰ		2		春	平 川 雄 士	2・3	
LWS52300	租税法Ⅱ		2		秋	平 川 雄 士	2・3	
LWS52400	経済法Ⅰ		2		春	楠 茂 樹	2・3	
LWS52500	経済法Ⅱ		2		秋	楠 茂 樹	2・3	
LWS52600	知的財産権法Ⅰ		2		春	駒 田 泰 上	2・3	
LWS52700	知的財産権法Ⅱ		2		秋	駒 田 泰 士	2・3	
LWS52800	倒産処理法		4		春	田 頭 章 一	2・3	
LWS52900	民事執行・保全法		2		春	原 強	2・3	

登録番号	授業科目名	単 位			開講期	担 当 者	履修年次	備 考
		必修	選必	選択		氏 名		
LWS53000	スポーツ・エンタテインメント法		1		春	コーディネータ *道垣内 正人 森 下 哲 朗 *小 寺 彰 一 *松 井 真 一 *松 田 俊 治 *藤 原 総 一郎 *服 部 薫	2・3	春学期後半, 輪講
LWS53100	医療と法 (国際関係法系)		1		秋	町野 朔 岩田 太郎 奥 田 純一郎	2・3	秋学期後半, 同時担当
LWS53200	国際法基礎		2		春	江 藤 淳 一	1~3	
LWS53300	国際取引法		2		秋	森 下 哲 朗	2・3	
LWS53400	国際私法		2		春	出 口 耕 自	2・3	
LWS53500	国際家族法		1		秋	出 口 耕 自	2・3	秋学期後半
LWS53600	国際人権法		1		秋	江 藤 淳 一	2・3	秋学期前半 注5
LWS53700	国際経済法		2		秋	川 瀬 剛 志	2・3	
LWS53800	国際取引法の現代的課題		2		春	和 仁 亮 裕	2・3	
LWS53900	国際民事紛争処理 (環 境 法 系)		1		春	*道垣内 正 人	2・3	春学期前半 注5
LWS54000	環境法基礎		2		春	桑 原 勇 進	1~3	
LWS54100	環境法政策		2		春	北 村 喜 宣	2・3	
LWS54200	環境訴訟		2		春	越 智 敏 裕	2・3	
LWS54300	企業環境法		2		秋	吉 川 栄 一	2・3	
LWS54400	国際環境法		1		春	村 瀬 信 也	2・3	春学期前半 注5
LWS54500	環境刑法		1		春	町 野 朔	2・3	春学期後半
LWS54600	比較環境法		2		秋	*及 川 敬 貴	2・3	
MGGE7020	自然保護法		2		秋	嶋 山 武 道	2・3	地球環境学専攻開講科目 注6
MGGE7350	地球環境条約論 [そ の 他]		2		春	嶋 上 河 原 献 二	2・3	地球環境学専攻開講科目 注6
LWS60500	法と実務入門			1	春	葉 玉 匡 美	1	春学期前半 注5

登録番号	授業科目名	単 位			開講期	担 当 者	履修年次	備 考
		必修	選必	選択		氏 名		
LWS60600	Law and Practice of International Business Transactions			1	秋	コーディネータ 森下哲朗 *前田博 *手塚裕之 *WINDEN Andrew *GRUNDY Tony	1~3	秋学期前半, 輪講, 注5
LWS60610	Economic Torts [研究・論文]			2	秋	KUTNER, Peter	1~3	海外招聘客員教員担当科目
LWS60700	自主研究・論文作成					町野 朔	3	
LWS60701	自主研究・論文作成					高見 勝利	3	
LWS60702	自主研究・論文作成					滝澤 正	3	
LWS60703	自主研究・論文作成					吉川 栄一	3	
LWS60704	自主研究・論文作成					長沼 範良	3	
LWS60706	自主研究・論文作成					小幡 純子	3	
LWS60707	自主研究・論文作成					小塚 荘一郎	3	
LWS60708	自主研究・論文作成					加藤 雅信	3	
LWS60709	自主研究・論文作成					田頭 章一	3	

注1. クラス指定あり。A, Bクラスの指定は、必ず守ること。

注2. 「刑事訴訟法Ⅰ」「刑事訴訟法Ⅱ」についてはいずれか未修得の場合のみ履修すること。「刑事訴訟法Ⅰ」が未修得の場合は「刑事訴訟法(Aクラス)」の前半の授業に出席すること。「刑事訴訟法Ⅱ」が未修得の場合は「刑事訴訟法(Aクラス)」の後半の授業に出席すること。「刑事訴訟法Ⅰ」「刑事訴訟法Ⅱ」ともに未修得の場合は、「刑事訴訟法」を履修すること。

注3. この科目を標準コースの学生が履修しても、修了要件としての選択科目には算入されないが、修得単位としては算入される。

注4. 同一内容であるため、春・秋学期いずれか1科目を履修すること。

注5. この科目は履修中止できない。

注6. この科目は法科大学院の授業日程と異なる場合があるので、事前に法科大学院事務室に確認すること。

2010 年度開講科目担当表

【07 年次生以降】

※短縮（2 年制）コース新入生の年次は、2 年次とする。

※担当者欄の *印は兼任講師（非常勤講師）、（他）は兼任講師を示す。

登録番号	授 業 科 目 名	単 位			開講期	担 当 者 氏 名	履修年次	備 考
		必修	選必	選択				
	[法律基本科目]							
LWS10100	憲法基礎	4			春	矢 島 基 美	1	
LWS10200	行政法基礎	2			秋	古 城 誠	1	
LWS10300	民法基礎 I	4			春	加 藤 雅 信	1	
LWS10400	民法基礎 II	4			秋	福 田 誠 治	1	
LWS10500	民法基礎 III	2			秋	西 希代子	1	
LWS10600	商法基礎	4			秋	野 田 耕 志	1	
LWS10700	民事訴訟法基礎	4			秋	田 頭 章 一	1	
LWS10800	刑法基礎	4			春	町 野 朔	1	
LWS10900	刑事訴訟法基礎	2			秋	岩 瀬 徹	1	
LWS20100	憲法	2			春	高 見 勝 利	2	A クラス, 公法 I と合同 } 同内容 注 1
LWS20101	憲法	2			春	高 見 勝 利	2	
LWS20200	行政法	2			秋	小 幡 純 子	2	A クラス, 公法 II と合同 } 同内容 注 1
LWS20201	行政法	2			秋	小 幡 純 子	2	
LWS20300	民法 I	4			春	辻 伸 行	2	A クラス } 同内容 注 1
LWS20301	民法 I	4			春	辻 伸 行	2	
LWS20400	民法 II	4			春	佐 藤 岩 昭	2	A クラス } 同内容 注 1
LWS20401	民法 II	4			春	佐 藤 岩 昭	2	
LWS21500	商法 I	2			春	松 井 智 予	2	A クラス } 同内容 注 1
LWS21501	商法 I	2			春	松 井 智 予	2	
LWS21600	商法 II	2			秋	松 井 智 予	2	A クラス } 同内容 注 1
LWS21601	商法 II	2			秋	松 井 智 予	2	
LWS20600	民事訴訟法 I	2			春	原 強	2	A クラス } 同内容 注 1
LWS20601	民事訴訟法 I	2			春	原 強	2	
LWS20700	民事訴訟法 II	2			秋	原 強	2	A クラス } 同内容 注 1
LWS20701	民事訴訟法 II	2			秋	原 強	2	

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者		履修年次	備考
		必修	選択	選択		氏名			
LWS20800	刑法	2			秋	町野 朔	2	Aクラス } 同内容 注1 Bクラス }	
LWS20801	刑法	2			秋	町野 朔	2		
LWS20900	刑事訴訟法 I	2			秋	長沼 範良	2	刑事訴訟法 (Aクラス) 前半と合同注2	
LWS20902	刑事訴訟法 I	2			秋	長沼 範良	2	刑事訴訟法 (Bクラス) 前半と合同注2	
LWS21000	刑事訴訟法 II	2			秋	長沼 範良	2	刑事訴訟法 (Aクラス) 後半と合同注2	
LWS21002	刑事訴訟法 II	2			秋	長沼 範良	2	刑事訴訟法 (Bクラス) 後半と合同注2	
LWS21400	刑事訴訟法	4			秋	長沼 範良	2	Aクラス, 刑事訴訟法 I (Aクラス)・II (Aクラス) と合同 同内容	
LWS21401	刑事訴訟法	4			秋	長沼 範良	2	Bクラス, 刑事訴訟法 I (Bクラス)・II (Bクラス) と合同 注1・注2	
LWS30100	公法 (総合)	2			春	*越智 敏 裕 青柳 幸 一	3	輪講, Aクラス } 同内容 注1	
LWS30101	公法 (総合)	2			春	*越智 敏 裕 青柳 幸 一	3	輪講, Bクラス }	
LWS30200	民事法 (総合)	2			春	石加 井 晃 藤 藤 雅 信	3	同時担当, Aクラス } 同内容 注1	
LWS30201	民事法 (総合)	2			春	石加 井 晃 藤 藤 雅 信	3	同時担当, Bクラス }	
LWS30300	刑事法 (総合)	2			春	林島 幹 人 岩 田 聡 一郎 瀬 瀬 徹	3	輪講, Aクラス } 同内容 注1	
LWS30301	刑事法 (総合)	2			春	林島 幹 人 岩 田 聡 一郎 瀬 瀬 徹	3	輪講, Bクラス }	
LWS60100	企業取引法		2		春	*小塚 荘一郎	3	注3	
LWS60800	法学入門		2		春	森下 哲 朗 高見 勝 利 島田 聡 一郎 西 希 代子 *日吉 由美子 *南谷 幸次 *海老沼 英 *横手 聡	1	*2010年度入学以降の標準 (3年制) コースの入学者が対象。	
	[法律実務基礎科目]								
LWS21100	法曹倫理	2			春	更田 義 彦 岩 中 知 徹 瀬 瀬 彦 子	2	輪講, Aクラス } 同内容 注1	
LWS21101	法曹倫理	2			春	更田 義 彦 岩 中 知 徹 瀬 瀬 彦 子	2	輪講, Bクラス }	
LWS30400	訴訟実務基礎 (民事)	2			春	*河村 浩	3	Aクラス } 同内容 注1	
LWS30401	訴訟実務基礎 (民事)	2			春	*河村 浩	3	Bクラス }	
LWS30500	訴訟実務基礎 (刑事)	2			春	更田 義 彦 岩 中 知 徹 瀬 瀬 彦 子	3	輪講, Aクラス } 同内容 注1	
LWS30501	訴訟実務基礎 (刑事)	2			春	更田 義 彦 岩 中 知 徹 瀬 瀬 彦 子	3	輪講, Bクラス }	

登録番号	授業科目名	単 位			開講期	担 当 者			履修年次	備 考
		必修	選択	選択		氏 名				
LWS61100	民法と実務			2	秋	葉 玉 匡 美			1~3	
LWS60201	会社法と実務			2	春	葉 玉 匡 美			1~3	
LWS60300	応用訴訟実務			2	秋	葉 玉 匡 美			3	
LWS60401	要件事実と法曹実務 (A群・実務演習科目)			2	秋	石井 文 晃 *柳澤 宏 輝 *森 大 樹			3	輪講 *「要件事実」は、2010年度以後は、「要件事実と法曹実務」と読み替えるものとする。
LWS50100	公共法務演習			2	秋	高小 見 勝 利 *桑羽 幡 純 子 羽 根 一 成			2	輪講
LWS50200	企業法務演習			2	秋	石井 文 晃 松 井 智 予			2	同時担当
LWS50300	環境法実務演習			2	秋	北越 村 喜 宣 越 智 敏 裕			2	同時担当
LWS50400	金融法実務演習			2	春	和森 仁 亮 裕 *前田 下 哲 朗 博			2	同時担当
LWS50500	家庭の法務演習 (B群・実務科目)			2	秋	*西野 希代子 崎 薫 子			2	同時担当
LWS50600	模擬裁判 (民事)			2	秋	更安 田 義 彦 *河 村 明 浩			3	隔週、同時担当
LWS50700	模擬裁判 (刑事)			2	秋	更田 田 義 彦 岩 中 知 子 瀬 徹			3	同時担当
LWS50800	ネゴシエイション・ロイヤリング			2	春	石森 井 文 晃 森 下 哲 朗			3	春学期集中講義、輪講
LWS50900	法文書作成			2	秋	更葉 田 義 彦 葉 玉 匡 美			3	輪講
LWS51000	リーガルライティング			2	秋	和平 仁 亮 裕 川 雄 士			3	輪講
LWS51100	刑事実務			2	秋	田中 知 子 岩 瀬 徹			3	輪講
LWS51200	リーガルクリニック			2	春	コーディネータ 岩 瀬 徹 コーディネータ *原 中 千 強 *田 端 広 草 *関 木 潤 輝 *鈴 佐 和 子 *岩 本 維 雄 *楠 大			3	同時担当
LWS51201	リーガルクリニック			2	秋	コーディネータ 岩 瀬 徹 コーディネータ *原 前 由 強 *大 軒 敬 子 *古 川 健 太郎 *大 健 一 *南 谷 英 幸			3	同時担当

隔週
春学期・秋学期同内容、
各クラス定員15名、
注4

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者		履修年次	備考
		必修	選必	選択		氏名			
LWS5131S	エクスターンシップⅠ		1		春	石井文晃 和小幡純 野田耕雄 平川雄士 *石井光 *権田洋	2・3	春学期集中講義	
LWS5131A	エクスターンシップⅠ		1		秋	石井文晃 和小幡純 野田耕雄 平川雄士 *石井光 *権田洋	2・3	秋学期集中講義	
LWS5132S	エクスターンシップⅡ		1		春	石井文晃 和小幡純 野田耕雄 平川雄士 *石井光 *権田洋	2・3	春学期集中講義	
LWS5132A	エクスターンシップⅡ		1		秋	石井文晃 和小幡純 野田耕雄 平川雄士 *石井光 *権田洋	2・3	秋学期集中講義	
LWS51400	国際仲裁・ADR [基礎法学・隣接科目]		2		春	石森文晃 *森下哲 *森瀬口捨治 *森口聡	2・3	春学期集中講義	
LWS51500	比較法		2		秋	滝澤正	1～3		
LWS51600	英米法		2		春	岩田太	1～3		
LWS51700	法哲学		2		秋	奥田純一郎	1～3		
LWS51800	法社会学		2		秋	*太田勝造	1～3		
LWS51900	法と経済学 [展開・先端科目] (社会経済法系)		2		秋	畑山崎福寿	1～3		
LWS52000	労働法Ⅰ		2		春	森戸英幸	2・3		
LWS52100	労働法Ⅱ		2		秋	森戸英幸	2・3		
LWS52200	租税法Ⅰ		2		春	平川雄士	2・3		
LWS52300	租税法Ⅱ		2		秋	平川雄士	2・3		
LWS52400	経済法Ⅰ		2		春	楠茂樹	2・3		
LWS52500	経済法Ⅱ		2		秋	楠茂樹	2・3		

登録番号	授業科目名	単 位			開講期	担当 者 氏 名	履修 年次	備 考
		必修	選必	選択				
	知的財産権法Ⅰ		2		春	*井奈波 朋子	2・3	
	知的財産権法Ⅱ		2		秋	*山 神 清 和	2・3	
LWS52800	倒産処理法		4		春	田 頭 章 一	2・3	
LWS52900	民事執行・保全法		2		秋	原 強	2・3	
LWS53000	スポーツ・エンタテインメント法		1		春	コーディネータ *道垣内 正人 森 下 哲 朗 *小 寺 彰 一 *松 井 真 治 *松 田 俊 一 *藤 原 総 一郎 *服 部 薫	2・3	春学期後半, 輪講
LWS53100	医療と法 (国際関係法系)		1		秋	町 野 朔 岩 田 太 朗 奥 田 純 一 郎	2・3	秋学期後半, 同時担当
LWS53200	国際法基礎		2		春	江 藤 淳 一	1~3	
LWS53300	国際取引法		2		秋	森 下 哲 朗	2・3	
LWS53400	国際私法		2		春	出 口 耕 自	2・3	
LWS53500	国際家族法		1		秋	出 口 耕 自	2・3	秋学期後半
LWS53600	国際人権法		1		秋	江 藤 淳 一	2・3	秋学期前半 注5
LWS53700	国際経済法		2		秋	川 瀬 剛 志	2・3	
LWS53800	国際取引法の現代的課題		2		春	和 仁 亮 裕	2・3	
LWS53900	国際民事紛争処理 (環 境 法 系)		1		春	*道垣内 正人	2・3	春学期前半 注5
LWS54000	環境法基礎		2		春	桑 原 勇 進	1~3	
LWS54100	環境法政策		2		春	北 村 喜 宣	2・3	
LWS54200	環境訴訟		2		春	越 智 敏 裕	2・3	
LWS54300	企業環境法		2		秋	吉 川 栄 一	2・3	
MGGE7470	国際環境法Ⅱ		2		秋	池 崎 博 司	2・3	地球環境学専攻開講科目 注6
LWS54500	環境刑法		1		春	町 野 朔	2・3	春学期後半
LWS54600	比較環境法		2		秋	*及 川 敬 貴	2・3	
LWS54700	自然保護法		2		春	*畠 山 武 道	2・3	
MGGE7350	地球環境条約論		2		春	池 上 河 原 献 二	2・3	地球環境学専攻開講科目 注6

登録番号	授 業 科 目 名	単 位			開 講 期	担 当 者 氏 名	履 修 年 次	備 考
		必 修	選 必	選 択				
	[そ の 他]							
LWS60500	法と実務入門			1	春	葉 玉 匡 美	1	春学期前半 注5
LWS60600	Law and Practice of International Business Transactions			1	秋	コーディネータ 森 下 哲 朗 *前 田 博 *手 塚 裕 之 * WINDEN Andrew * GRUNDY Anthony John	1~3	秋学期前半, 輪講, 注5
LWS60900	国際商事仲裁			1	春	SHAHRULLAH Rina	1~3	春学期前半, 海外招聘客員教員担当 科目, 注5
LWS61000	イスラム法			1	春	SHAHRULLAH Rina	1~3	春学期後半, 海外招聘客員教員担当 科目
	[研 究 ・ 論 文]							
LWS60700	自主研究・論文作成			2	秋	町 野 朔	3	
LWS60701	自主研究・論文作成			2	秋	高 見 勝 利	3	
LWS60702	自主研究・論文作成			2	秋	滝 澤 正	3	
LWS60711	自主研究・論文作成			2	秋	奥 富 晃	3	
LWS60704	自主研究・論文作成			2	秋	長 沼 範 良	3	
LWS60706	自主研究・論文作成			2	秋	小 幡 純 子	3	
LWS60709	自主研究・論文作成			2	秋	田 頭 章 一	3	
LWS60708	自主研究・論文作成			2	秋	加 藤 雅 信	3	
LWS60705	自主研究・論文作成			2	秋	原 強	3	
LWS60710	自主研究・論文作成			2	秋	松 井 智 予	3	

注1. クラス指定あり。A, Bクラスの指定は、必ず守ること。

注2. 「刑事訴訟法Ⅰ」「刑事訴訟法Ⅱ」についてはいずれか未修得の場合のみ履修すること。「刑事訴訟法Ⅰ」が未修得の場合は「刑事訴訟法」の前半の授業に出席すること。

「刑事訴訟法Ⅱ」が未修得の場合は「刑事訴訟法」の後半の授業に出席すること。

「刑事訴訟法Ⅰ」「刑事訴訟法Ⅱ」ともに未修得の場合は、「刑事訴訟法」を履修すること。

注3. この科目を標準コースの学生が履修しても、修了要件としての選択科目には算入されないが、修得単位としては算入される。

注4. 同一内容であるため、春・秋学期いずれか1科目を履修すること。

注5. この科目は履修中止できない。

注6. この科目は法科大学院の授業日程と異なる場合があるので、事前に法科大学院事務室に確認すること。

2011 年度開講科目担当表

【2007 年度入学生以降】

※短縮（2 年制）コース新入生の年次は、2 年次とする。

※担当者欄の * 印は兼任講師（非常勤講師）、（他）は兼任講師を示す

※前半は学期の前半、後半は学期の後半に授業を行うことを示す

登録番号	授業科目名	単 位			開講期	担 当 者 氏 名	履修 年次	備 考
		必修	選必	選択				
	[法律基本科目]							
LWS10100	憲法基礎	4			春	小 島 慎 司	1	週 2 回
LWS10200	行政法基礎	2			秋	古 城 誠	1	
LWS10300	民法基礎 I	4			春	加 藤 雅 信	1	週 2 回
LWS10400	民法基礎 II	4			秋	福 田 誠 治	1	週 2 回
LWS10500	民法基礎 III	2			秋	西 希代子	1	
LWS10600	商法基礎	4			秋	野 田 耕 志	1	週 2 回
LWS10700	民事訴訟法基礎	4			秋	出 頭 章 一	1	週 2 回
LWS10800	刑法基礎	4			春	島 田 聡一郎	1	週 2 回
LWS10900	刑事訴訟法基礎	2			秋	岩 瀬 徹	1	
LWS20100	憲法	2			春	高 見 勝 利	2	A クラス
LWS20101	憲法	2			春	高 見 勝 利	2	B クラス
LWS20200	行政法	2			秋	小 幡 純 子	2	A クラス
LWS20201	行政法	2			秋	小 幡 純 子	2	B クラス
LWS20300	民法 I	4			春	福 田 誠 治	2	A クラス
LWS20301	民法 I	4			春	福 田 誠 治	2	B クラス
LWS20400	民法 II	4			春	奥 富 晃	2	A クラス
LWS20401	民法 II	4			春	奥 富 晃	2	B クラス
LWS21500	商法 I	2			春	* 松 井 秀 征	2	A クラス
LWS21501	商法 I	2			春	* 松 井 秀 征	2	B クラス
LWS21600	商法 II	2			秋	* 出 口 正 義	2	A クラス
LWS21601	商法 II	2			秋	* 出 口 正 義	2	B クラス
LWS20600	民事訴訟法 I	2			春	原 強	2	A クラス
LWS20601	民事訴訟法 I	2			春	原 強	2	B クラス
LWS20700	民事訴訟法 II	2			秋	原 強	2	A クラス
LWS20701	民事訴訟法 II	2			秋	原 強	2	B クラス
LWS20800	刑法	2			秋	林 幹 人	2	A クラス
LWS20801	刑法	2			秋	林 幹 人	2	B クラス

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者		履修年次	備考
		必修	選必	選択		氏名			
LWS21400	刑事訴訟法	4			秋	長 沼 範 良	2	A クラス	同内容 週2回 注1
LWS21401	刑事訴訟法	4			秋	長 沼 範 良	2	B クラス	
LWS30100	公法（総合）	2			春	矢 島 基 美 越 智 敏 裕 筑 紫 圭 一	3	A クラス	同内容 後半同時担当 輪講 注1
LWS30101	公法（総合）	2			春	矢 島 基 美 越 智 敏 裕 筑 紫 圭 一	3	B クラス	
LWS30200	民事法（総合）	2			春	石 井 文 晃 加 藤 雅 信 田 頭 章 一	3	A クラス	同内容 同時担当 注1
LWS30201	民事法（総合）	2			春	石 井 文 晃 加 藤 雅 信 田 頭 章 一	3	B クラス	
LWS30300	刑事法（総合）	2			春	島 田 聡一郎 岩 瀬 徹	3	A クラス	同内容 輪講 注1
LWS30301	刑事法（総合）	2			春	島 田 聡一郎 岩 瀬 徹	3	B クラス	
LWS60800	法学入門		2		春	森 下 哲 朗 高 見 勝 利 島 島 田 聡一郎 西 日 希代子 * 南 吉 由美子 * 海老 英 幸次 * 横 手 聡	1		2010年度入学以降の標準（3年制） コースの入学者が対象。 隔週 輪講
	[法律実務基礎科目]								
LWS21100	法曹倫理	2			春	更 田 義 彦 熊 岩 瀬 貴 士 岩 瀬 貴 徹	2	A クラス	同内容 輪講 注1
LWS21101	法曹倫理	2			春	更 田 義 彦 熊 岩 瀬 貴 士 岩 瀬 貴 徹	2	B クラス	
LWS30400	訴訟実務基礎（民事）	2			春	* 森 岡 礼 子	2	A クラス	同内容 注1
LWS30401	訴訟実務基礎（民事）	2			春	* 森 岡 礼 子	2	B クラス	
LWS30402	訴訟実務基礎（民事）	2			春	* 東 崎 賢 治	3	A クラス	※2011年度 3年次生用 同内容 注1
LWS30403	訴訟実務基礎（民事）	2			春	* 東 崎 賢 治	3	B クラス	
LWS30500	訴訟実務基礎（刑事）	2			春	更 田 義 彦 熊 岩 瀬 貴 士 岩 瀬 貴 徹	3	A クラス	同内容 輪講 注1
LWS30501	訴訟実務基礎（刑事）	2			春	更 田 義 彦 熊 岩 瀬 貴 士 岩 瀬 貴 徹	3	B クラス	
LWS61100	民法と実務			2	秋	葉 玉 匡 美	2・3		
LWS60201	会社法と実務			2	春	葉 玉 匡 美	3		

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者		履修年次	備考
		必修	選択	選択		氏名			
LWS60300	応用訴訟実務			2	秋	葉玉匡美		3	
LWS60401	要件事実と法曹実務			2	秋	石井文晃 *柳澤宏輝 *森大樹		2・3	輪講 *「要件事実」は、2010年度以後は、「要件事実と法曹実務」と読み替えるものとする。
LWS61200	行政法と実務 (A群・実務演習科目)			1	秋	越智敏裕		3	秋学期前半
LWS50100	公共法務演習			2	秋	高小勝利 桑幡純 *羽根勇一		2	輪講 注3
LWS50200	企業法務演習			2	秋	石井文晃 野田耕志		2	同時担当 注3
LWS50300	環境法実務演習			2	秋	北村喜宣 越智敏裕		2	同時担当 注3
LWS50400	金融法実務演習			2	春	和仁亮裕 *森前哲朗		2	同時担当 注3
LWS50500	家庭の法務演習 (B群・実務科目)			2	春	西希代子 *野崎薫		2	同時担当 注3
LWS50600	模擬裁判(民事)			2	秋	更田義彦 *森岡礼子		3	隔週 同時担当 注3
LWS50700	模擬裁判(刑事)			2	秋	更田義彦 熊澤貴士 岩瀬徹		3	同時担当 注3
LWS50800	ネゴシエーション・ロイヤリング			2	春	石井文晃 森下哲朗		3	春学期集中講義 輪講 注3
LWS50900	法文書作成			2	秋	更田義彦 葉玉匡美		3	輪講 注3
LWS51000	リーガルライティング			2	秋	和平亮雄 仁川裕士		3	輪講 注3
LWS51100	刑事実務			2	秋	熊澤貴士 岩瀬徹		3	輪講 注3

登録番号	授業科目名	単 位			開講期	担 当 者		履修年次	備 考
		必修	選必	選択		氏 名			
LWS51200	リーガルクリニック		2		春	コーディネーター 岩瀬 徹 コーディネーター 原 強 * 田中 千草 * 関端 広輝 * 鈴木 潤子 * 多田 津雪 * 楠本 維大	3	同時担当 隔週 春学期・秋学期同内容 各クラス定員15名 注2 注3	
LWS51201	リーガルクリニック		2		秋	コーディネーター 岩瀬 徹 コーディネーター * 大南 健一 * 高橋 英弘 * 森岡 耕子 * 谷川 太雄	3		
LWS5131S	エクスターンシップⅠ		1		春	石井 文 晃 和小 仁 裕 平 幡 純 石野 田 志 * 平川 士 * 石井 慎 * 権田 洋	2・3		春学期集中講義 注3
LWS5131A	エクスターンシップⅠ		1		秋	石井 文 晃 和小 仁 裕 平 幡 純 * 石野 田 志 * 権田 慎 * 権田 洋	2・3		秋学期集中講義 注3
LWS5132S	エクスターンシップⅡ		1		春	石井 文 晃 和小 仁 裕 平 幡 純 * 石野 田 志 * 権田 慎 * 権田 洋	2・3		春学期集中講義 注3
LWS5132A	エクスターンシップⅡ		1		秋	石井 文 晃 和小 仁 裕 平 幡 純 * 石野 田 志 * 権田 慎 * 権田 洋	2・3		秋学期集中講義 注3
LWS51400	国際仲裁・ADR 【基礎法学・隣接科目】		2		春	石森 井 文 晃 * 森下 哲 朗 * 森 口 大 樹 * 森 聡	2・3		春学期集中講義 注3
LWS51500	比較法		2		秋	滝澤 正	1~3		
LWS51600	英米法		2		春	岩田 太	1~3		
LWS51700	法哲学		2		秋	奥田 純一郎	1~3		
LWS51800	法社会学		2		秋	* 太田 勝造	1~3		

登録番号	授業科目名	単 位			開講期	担当 者	履修年次	備 考
		必修	選必	選択		氏 名		
LWS51900	法と経済学 [展開・先端科目] (社会経済法系)		2		秋	他山 崎 福 寿	1~3	
LWS52000	労働法Ⅰ		2		春	森 戸 英 幸	2・3	
LWS52100	労働法Ⅱ		2		秋	森 戸 英 幸	2・3	
LWS52200	租税法Ⅰ		2		春	平 川 雄 士	2・3	
LWS52300	租税法Ⅱ		2		秋	平 川 雄 士	2・3	
LWS52400	経済法Ⅰ		2		春	楠 茂 樹	2・3	
LWS52500	経済法Ⅱ		2		秋	楠 茂 樹	2・3	
LWS52600	知的財産権法Ⅰ		2		春	駒 田 泰 士	2・3	
LWS52700	知的財産権法Ⅱ		2		秋	駒 田 泰 士	2・3	
LWS52800	倒産処理法		4		春	田 頭 章 一	2・3	週2回
LWS52900	民事執行・保全法		2		秋	原 強	2・3	
LWS53000	スポーツ・エンタテインメント法		1		春	コーディネーター *道垣内 正 人 *森 下 哲 朗 *小寺 井 真 影 *松井 田 俊 一 *藤原 部 治 郎 *服部 薫	2・3	春学期前半 輪講 注3
LWS53100	医療と法		1		秋	町 野 朔 岩 田 太 奥 田 純 一 郎	2・3	秋学期後半 同時担当
LWS54800	金融法 (国際関係法系)		2		秋	和 仁 亮 裕 森 野 下 田 耕 志 *井 上 上 聡 *藤 田 元 康	2・3	輪講
LWS53200	国際法基礎		2		春	兼 原 敦 子	1~3	
LWS53300	国際取引法		2		秋	森 下 哲 朗	2・3	
LWS53400	国際私法		2		春	出 口 耕 自	2・3	
LWS53500	国際家族法		1		秋	出 口 耕 自	2・3	秋学期後半
LWS53600	国際人権法		1		秋	江 藤 淳 一	2・3	秋学期前半 注3
LWS53700	国際経済法		2		秋	川 瀬 剛 志	2・3	
LWS53800	国際取引法の現代的課題		2		春	和 仁 亮 裕	2・3	
LWS53900	国際民事紛争処理		1		春	*道垣内 正 人	2・3	春学期後半

登録番号	授業科目名	単位			開講期	担当者 氏名	履修 年次	備考
		必修	選必	選択				
	(環境法系)							
LWS54000	環境法基礎		2		秋	筑紫圭一	1~3	
LWS54100	環境法政策		2		春	北村喜宣	2・3	
LWS54200	環境訴訟		2		春	越智敏裕	2・3	
LWS54300	企業環境法		2		秋	吉川栄一	2・3	
MGGE7470	国際環境法Ⅱ		2		秋	磯崎博司	2・3	地球環境学専攻開講科目 注4
LWS54500	環境刑法		1		春	町野朔	2・3	春学期後半
LWS54600	比較環境法		2		秋	*及川敬貴	2・3	
LWS54700	自然保護法		2		春	桑原勇進	2・3	
	[その他]							
LWS60500	法と実務入門		1		春	葉玉匡美	1	春学期前半 注3
LWS60600	Law and Practice of International Business Transactions		1		秋	コーディネータ 森下哲朗 * WINDEN Andrew * GRUNDY Anthony John * GILMORE David Andrew	1~3	秋学期前半 輪講
	[研究・論文]							
LWS60701	自主研究・論文作成		2		秋	高見勝利	3	
LWS60702	自主研究・論文作成		2		秋	滝澤正	3	
LWS60711	自主研究・論文作成		2		秋	奥富晃	3	
LWS60704	自主研究・論文作成		2		秋	長沼範良	3	
LWS60706	自主研究・論文作成		2		秋	小幡純子	3	
LWS60708	自主研究・論文作成		2		秋	加藤雅信	3	
LWS60705	自主研究・論文作成		2		秋	原強	3	
LWS60700	自主研究・論文作成		2		秋	福田誠治	3	
LWS60710	自主研究・論文作成		2		秋	島田聡一郎	3	

注1. クラス指定あり。A, Bクラスの指定は、必ず守ること。

注2. 同一内容であるため、春・秋学期いずれか1科目を履修すること。

注3. この科目は履修中止できない。

注4. この科目は法科大学院の授業日程と異なる場合があるので、事前に法科大学院事務室に確認すること。

別紙2 [授業アンケート結果]

法科大学院アンケート（2007年前期中間）について

	一年必修	二年必修	三年必修	実務基礎	演習	展開先端
2.予習	3.59	3.47	2.77	3.57	3.58	4.05
3.復習	3.56	3.89	3.74	4.01	4.16	4.19
4.難易度	2.53	2.79	2.44	2.48	2.06	2.71
5.量	2.7	3.06	2.52	2.59	2.66	2.86
6.課題	2.64	2.8	2.27	2.26	2.55	2.87
7.やりとり	1.77	1.75	1.65	1.76	1.39	1.69
8.質問	2	2.11	1.79	2.13	1.53	2.06
9.教材	1.51	1.56	1.44	1.45	1.35	1.31
10.説明	2.55	2.39	2.3	2.45	1.89	2.02
11.理解	2.77	2.49	2.84	2.81	2.97	2.52
12.期待	1.76	1.87	1.69	1.75	1.53	1.54
13.好奇心	2.35	2.43	2.33	2.47	1.94	2.09
14.満足度	2.5	2.51	2.33	2.55	1.97	2.03
前期最終	2.36	2.47	1.98	-	2.03	2.04
後期中間	2.65	2.29	-	1.8	2.07	2.08

- * 予習：1：7h以上、2：5～7h、3：3～5h、4：1～3h、5：0～1h
- * 復習：1：5h以上、2：3～5h、3：1～2h、4：1～2h、5：0～1h
- * 難易度：1：難しすぎる、2：ちょっと難しい、3：ちょうどよい、4：ちょっとやさしい、5：やさしすぎる
- * 量・課題：1：多すぎる、2：ちょっと多い、3：ちょうどよい、4：ちょっと少ない、5：少なすぎる
- * やりとり：3：効果的、2：普通、1：効果的でない
- * 質問への対応：5：不熱心、4：あまり熱心でない、3：普通、2：熱心、1：大変熱心
- * 教材：5：まったく活用されていない、4：あまり活用されていない、3：普通、2：活用されている、1：大変よく活用されている
- * 説明：5：非常にわかりにくい、4：わかりにくい、3：普通、2：わかりやすい、1：非常にわかりやすい
- * 理解：5：全くついていけない、4：少しついていけない、3：何とかついていけている、2：ついていけている、1：無理なくついていけている
- * 期待：3：期待したものを得られそうにない、2：よくわからない、1：期待したものを得られそう
- * 知的好奇心・楽しい：5：まったく楽しくない、4：あまり楽しくない、3：普通、4：楽しい、1：とても楽しい
- * 満足度：5：非常に不満である、4：やや不満である、3：普通である、2：ほぼ満足している、1：大変満足している

法科大学院アンケート（2007年度後期中間分）について

	一年必修		二年必修		基礎習得	実務	演習		展開先端		備考
	後期	前期	後期	前期			後期	前期	後期	前期	
2.予習	3.77	3.59	3.32	3.47	4.82	3.38	3.89	3.58	3.77	4.05	→大きいほど時間短い
3.復習	4.05	3.56	3.68	3.89	4.63	3.81	4.16	4.16	4.12	4.19	
4.難易度	2.77	2.53	2.54	2.79	2.72	2.56	2.72	2.06	2.64	2.71	
5.量	2.85	2.7	2.62	3.06	2.99	2.73	2.95	2.66	2.82	2.86	→量が丁度よく、小さいほど難多
6.課題	2.93	2.64	2.58	2.8	3.02	2.57	2.84	2.55	2.78	2.87	
7.やりとり	2.26	1.77	2.4	1.75	2.29	2.81	2.65	1.39	2.53	1.69	→大きいほど高評価(前回と逆転) : 7と12は3点満点
8.質問	3.51	2	4	2.11	3.62	4.21	4.32	1.53	4.07	2.06	
9.教材	2.59	1.51	2.61	1.56	2.52	2.79	2.56	1.35	2.96	1.31	
10.説明	3.41	2.55	3.56	2.39	3.46	4.08	3.68	1.89	3.74	2.02	
11.理解	3.03	2.77	2.93	2.49	3.08	3.28	3.38	2.97	3.08	2.52	
12.期待	2.27	1.76	2.43	1.87	2.37	2.86	2.65	1.53	2.68	1.54	
13.好奇心	3.3	2.35	3.69	2.43	3.53	4.04	3.92	1.94	3.84	2.09	
14.満足度	3.34	2.5	3.65	2.51	3.54	4.15	3.97	1.97	3.88	2.03	

* 予習 : 5 : 7h 以上、4 : 5~7 h、3 : 3~5 h、2 : 1~3 h、1 : 0~1 h

* 復習 : 5 : 5h 以上、4 : 3~5 h、3 : 1~2 h、2 : 1~2 h、1 : 0~1 h

法科大学院アンケート（2008年度前期中間分）について

	一年基本	二年基本	三年基本	実務基礎	その他	
2. 予習	3.79	3.42	3.44	3.75	4.29	大きいほど 短い
3. 復習	3.49	3.8	3.67	3.82	4.33	
4. 難易度	2.64	2.65	2.46	2.52	2.73	3が丁度よ く、小さいほ ど難・多
5. 授業の量	2.83	2.87	2.69	2.64	2.86	
6. 課題の量	2.92	2.73	2.69	2.55	2.87	
7. やりとり	2.21	2.39	2.39	2.5	2.49	大きいほど 高評価:7と 12は3が満 点
8. 質問	3.99	3.73	3.68	3.95	3.71	
9. 教材	2.63	2.47	2.41	2.76	2.79	
10. 説明	3.13	3.45	3.37	3.62	3.62	
11. 理解	3	3.04	2.86	2.92	3.05	
12. 期待	2.33	2.29	2.35	2.5	2.53	
13. 好奇心	3.49	3.46	3.43	3.64	3.79	
14. 満足	3.25	3.41	3.44	3.68	3.79	

<マークシート項目>

- あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい予習の時間をかけていますか？
①7時間以上、②5～7時間、③3～5時間、④1～3時間、⑤0～1時間
- あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい復習の時間をかけていますか？
①5時間以上、②3～5時間、③2～3時間、④1～2時間、⑤0～1時間
- この授業の難易度はどうですか？
①難しすぎる、②ちょっと難しい、③ちょうどよい、④ちょっとやさしい、
⑤やさしすぎる
- 授業内容の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
- 1回ごとの授業の前後の課題の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
- 授業中の教員と学生のやりとりは授業の質を高めるうえで効果的に行われていると思いますか？
①思わない、②普通である、③思う
- 学生の質問に対する教員の対応はどうですか？
①不熱心である、②あまり熱心でない、③普通である、④熱心である、⑤大変熱心である

法科大学院アンケート（2008年度後期中間分）について

	一年基本		二年基本		演習	実務基礎		その他		
	前期	後期	前期	後期	後期	前期	後期	前期	後期	
2. 予習	3.79	3.94	3.42	3.36	3.79	3.75	3.45	4.29	4.21	大きいほど 短い
3. 復習	3.49	3.94	3.8	3.66	3.88	3.82	3.9	4.33	4.34	
4. 難易度	2.64	2.68	2.65	2.51	2.5	2.52	2.63	2.73	2.66	3が丁度よ く、小さいほ ど難・多
5. 授業の量	2.83	2.67	2.87	2.78	2.67	2.64	2.79	2.86	2.86	
6. 課題の量	2.92	2.85	2.73	2.66	2.74	2.55	2.79	2.87	2.85	大きいほど 高評価:「や りとり」と「期 待」は3が満 点
7. やりとり	2.21	2.31	2.39	2.55	2.57	2.5	2.64	2.49	2.37	
8. 質問	3.99	3.68	3.73	3.93	4.16	3.95	3.97	3.71	3.58	
9. 期待	2.63	3.58	2.47	3.6	3.93	2.76	3.7	2.79	3.6	
10. 説明	3.13	3.33	3.45	3.55	3.79	3.62	3.83	3.62	3.55	
11. 活用	3	2.81	3.04	2.86	2.9	2.92	3.22	3.05	3.1	
12. 期待	2.33	2.39	2.29	2.48	2.62	2.5	2.68	2.53	2.47	
13. 好奇心	3.49	3.26	3.46	3.66	3.86	3.64	3.93	3.79	3.56	
14. 満足	3.25	3.36	3.41	3.68	3.91	3.68	3.92	3.79	3.54	

<マークシート項目>

2. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい予習の時間をかけていますか？
①7時間以上、②5～7時間、③3～5時間、④1～3時間、⑤0～1時間
3. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい復習の時間をかけていますか？
①5時間以上、②3～5時間、③2～3時間、④1～2時間、⑤0～1時間
4. この授業の難易度はどうですか？
①難しすぎる、②ちょっと難しい、③ちょうどよい、④ちょっとやさしい、
⑤やさしすぎる
5. 授業内容の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
6. 1回ごとの授業の前後の課題の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
7. 授業中の教員と学生のやりとりは授業の質を高めるうえで効果的に行われていると思いますか？
①思わない、②普通である、③思う
8. 学生の質問に対する教員の対応はどうですか？
①不熱心である、②あまり熱心でない、③普通である、④熱心である、⑤大変熱心である
9. 教科書、テキスト、配布資料などは、授業を分かりやすく内容の濃いものにするために有効に活用されていますか？
①まったく活用されていない、②あまりよく活用されていない、③まあまあ、④よく活用されている、⑤大変よく活用されている
10. 教員の説明の仕方はわかりやすいですか？
①非常にわかりにくい、②わかりにくい、③普通である、④わかりやすい、⑤非常にわかりやすい
11. あなたは授業についていけていると思いますか？
①全くついていけない、②少しいついていけない、③何とかついていけている、④ついていけている、
⑤無理なくついていけている
12. 履修を終えた段階で、あなたがこの授業に期待したものを得られると思いますか？
①思わない、②まだよくわからない、③思う
13. この授業は知的好奇心を刺激され、楽しいですか？
①まったく楽しくない、②あまり楽しくない、③普通、④楽しい、⑤とても楽しい
14. この授業に対する総合評価を5段階でしてください。
①非常に不満である、②やや不満である、③普通である、④ほぼ満足している、⑤大変満足している

法科大学院アンケート（2009年度前期中間分）について

項目	分類	一年基本		二年基本		三年基本		実務基礎		展開先端		実務	
		2009	2008	2009	2008	2009	2008	2009	2008	2009	2008		
2	予習	3.71	3.79	3.58	3.42	3.33	3.44	3.9	3.75	4.13	4.29	3.9	大きいほど 短い
3	復習	3.54	3.49	3.78	3.8	3.69	3.67	4.05	3.82	4.16	4.33	4.05	
4	難易度	2.85	2.64	2.69	2.65	2.45	2.46	2.67	2.52	2.64	2.73	2.67	3が丁度よ く、小さい ほど難・多
5	授業の量	3.03	2.83	2.98	2.87	2.79	2.69	2.78	2.64	2.88	2.86	2.78	
6	課題の量	2.96	2.92	2.85	2.73	2.73	2.69	2.6	2.55	2.89	2.87	2.6	大きいほど 高評価:7と 12は3が 満点
7	やりとり	2.31	2.21	2.42	2.39	2.55	2.39	2.58	2.5	2.55	2.49	2.58	
8	質問	3.89	3.99	3.8	3.73	3.67	3.68	3.98	3.95	3.73	3.71	3.98	大きいほど 高評価:7と 12は3が 満点
9	教材	3.77	2.63	3.4	2.47	3.38	2.41	3.74	2.76	3.78	2.79	3.74	
10	説明	3.6	3.13	3.41	3.45	3.41	3.37	3.63	3.62	3.64	3.62	3.63	大きいほど 高評価:7と 12は3が 満点
11	理解	3.18	3	3.07	3.04	2.8	2.86	3.06	2.92	2.99	3.05	3.06	
12	期待	2.33	2.33	2.37	2.29	2.41	2.35	2.52	2.5	2.58	2.53	2.52	大きいほど 高評価:7と 12は3が 満点
13	好奇心	3.42	3.49	3.37	3.46	3.42	3.43	3.54	3.64	3.68	3.79	3.54	
14	満足	3.48	3.25	3.37	3.41	3.43	3.44	3.66	3.68	3.73	3.79	3.66	

<マークシート項目>

2. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい予習の時間をかけていますか？
①7時間以上、②5～7時間、③3～5時間、④1～3時間、⑤0～1時間
3. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい復習の時間をかけていますか？
①5時間以上、②3～5時間、③2～3時間、④1～2時間、⑤0～1時間
4. この授業の難易度はどうですか？
①難しすぎる、②ちょっと難しい、③ちょうどよい、④ちょっとやさしい、
⑤やさしすぎる
5. 授業内容の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
6. 1回ごとの授業の前後の課題の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
7. 授業中の教員と学生のやりとりは授業の質を高めるうえで効果的に行われていると思いますか？
①思わない、②普通である、③思う
8. 学生の質問に対する教員の対応はどうですか？
①不熱心である、②あまり熱心でない、③普通である、④熱心である、⑤大変熱心である
9. 教科書、テキスト、配布資料などは、授業を分かりやすく内容の濃いものにするために有効に活用されていますか？
①まったく活用されていない、②あまりよく活用されていない、③まあまあ、④よく活用されている、⑤大変よく活用されている
10. 教員の説明の仕方はわかりやすいですか？
①非常にわかりにくい、②わかりにくい、③普通である、④わかりやすい、⑤非常にわかりやすい
11. あなたは授業についていけていると思いますか？
①全くついていけない、②少しついていけない、③何とかついていけている、④ついていけている、⑤無理なくついていけている
12. 履修を終えた段階で、あなたがこの授業に期待したものを得られると思いますか？
①思わない、②まだよくわからない、③思う
13. この授業は知的好奇心を刺激され、楽しいですか？
①まったく楽しくない、②あまり楽しくない、③普通、④楽しい、⑤とても楽しい
14. この授業に対する総合評価を5段階でしてください。
2. 常に不満である、②やや不満である、③普通である、④ほぼ満足している、⑤大変満足している

法科大学院アンケート（2009年度後期中間分）について

項目	分類	一年基本		二年基本		展開先端		基礎・隣接	
		2009	2008	2009	2008	2009	2008	2009	
2	予習	4.03	3.94	3.89	3.36	4.01	4.29	4.13	大きいほど短い
3	復習	3.77	3.94	3.54	3.66	4.18	4.33	4.27	
4	難易度	2.79	2.68	2.59	2.51	2.63	2.73	2.67	3が丁度よく、小さいほど難・多
5	授業の量	2.8	2.67	2.71	2.78	2.78	2.86	2.79	
6	課題の量	2.8	2.85	2.72	2.66	2.75	2.87	2.73	大きいほど高評価：7と12は3が満点
7	やりとり	2.27	2.31	2.52	2.55	2.6	2.49	2.49	
8	質問	3.68	3.68	4.05	3.93	3.94	3.71	3.8	大きいほど高評価：7と12は3が満点
9	教材	3.82	3.58	3.57	3.6	3.95	2.79	3.69	
10	説明	3.51	3.33	3.7	3.55	3.84	3.62	3.72	大きいほど高評価：7と12は3が満点
11	理解	2.94	2.81	2.89	2.86	3.01	3.05	3.07	
12	期待	2.46	2.39	2.55	2.48	2.66	2.53	2.51	大きいほど高評価：7と12は3が満点
13	好奇心	3.34	3.26	3.66	3.66	3.74	3.79	3.67	
14	満足	3.53	3.36	3.69	3.68	3.79	3.79	3.77	

<マークシート項目>

2. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい予習の時間をかけていますか？
①7時間以上、②5～7時間、③3～5時間、④1～3時間、⑤0～1時間
3. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい復習の時間をかけていますか？
①5時間以上、②3～5時間、③2～3時間、④1～2時間、⑤0～1時間
4. この授業の難易度はどうですか？
①難しすぎる、②ちょっと難しい、③ちょうどよい、④ちょっとやさしい、⑤やさしすぎる
5. 授業内容の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
6. 1回ごとの授業の前後の課題の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
7. 授業中の教員と学生のやりとりは授業の質を高めるうえで効果的に行われていると思いますか？
①思わない、②普通である、③思う
8. 学生の質問に対する教員の対応はどうですか？
①不熱心である、②あまり熱心でない、③普通である、④熱心である、⑤大変熱心である
9. 教科書、テキスト、配布資料などは、授業を分かりやすく内容の濃いものにするために有効に活用されていますか？
①まったく活用されていない、②あまりよく活用されていない、③まあまあ、④よく活用されている、⑤大変よく活用されている
10. 教員の説明の仕方はわかりやすいですか？
①非常にわかりにくい、②わかりにくい、③普通である、④わかりやすい、⑤非常にわかりやすい
11. あなたは授業についていけていると思いますか？
①全くついていけない、②少しついていけない、③何とかついていけている、④ついていけている、⑤無理なくついていけている
12. 履修を終えた段階で、あなたがこの授業に期待したものを得られると思いますか？
①思わない、②まだよくわからない、③思う
13. この授業は知的好奇心を刺激され、楽しいですか？
①まったく楽しくない、②あまり楽しくない、③普通、④楽しい、⑤とても楽しい
14. この授業に対する総合評価を5段階でしてください。
①常に不満である、②やや不満である、③普通である、④ほぼ満足している、⑤大変満足している

法科大学院アンケート（2010年度前期中間分）について

項目	分類	一年基本			二年基本			三年基本			実務基礎			展開先端			その他		
		2010	2009	2008	2010	2009	2008	2010	2009	2008	2010	2009	2008	2010	2009	2008	2010	2009	
2	予習	3.31	3.71	3.79	3.67	3.58	3.42	3.54	3.33	3.44	4.06	3.9	3.75	4.27	4.13	4.29	3.94	3.9	大きい ほど短
3	復習	3.10	3.54	3.49	3.8	3.78	3.8	3.81	3.69	3.67	4.08	4.05	3.82	4.22	4.16	4.33	4	4.05	
4	難易度	2.60	2.85	2.64	2.48	2.69	2.65	2.6	2.45	2.46	2.67	2.67	2.52	2.68	2.64	2.73	2.63	2.67	3が丁 度よく、 小さい ほど難
5	授業の量	2.95	3.03	2.83	2.76	2.98	2.87	2.63	2.79	2.69	2.76	2.78	2.64	2.87	2.88	2.86	2.8	2.78	
6	課題の量	2.97	2.96	2.92	2.7	2.85	2.73	2.55	2.73	2.69	2.64	2.6	2.55	2.88	2.89	2.87	2.54	2.6	大きい ほど高 評価:7 と12は 3が満 点
7	やりとり	2.38	2.31	2.21	2.38	2.42	2.39	2.44	2.55	2.39	2.61	2.58	2.5	2.46	2.55	2.49	2.69	2.58	
8	質問	3.97	3.89	3.99	3.84	3.8	3.73	3.72	3.67	3.68	3.89	3.98	3.95	3.73	3.73	3.71	4.02	3.98	
9	教材	3.74	3.77	2.63	3.38	3.4	2.47	3.44	3.38	2.41	3.76	3.74	2.76	3.78	3.78	2.79	3.68	3.74	
10	説明	3.31	3.6	3.13	3.32	3.41	3.45	3.47	3.41	3.37	3.56	3.63	3.62	3.66	3.64	3.62	3.85	3.63	
11	理解	3.16	3.18	3	2.9	3.07	3.04	2.89	2.8	2.86	3.05	3.06	2.92	2.94	2.99	3.05	3.09	3.06	
12	期待	2.37	2.33	2.33	2.3	2.37	2.29	2.43	2.41	2.35	2.53	2.52	2.5	2.53	2.58	2.53	2.54	2.52	
13	好奇心	3.56	3.42	3.49	3.28	3.37	3.46	3.44	3.42	3.43	3.56	3.54	3.64	3.55	3.68	3.79	3.78	3.54	
14	満足	3.46	3.48	3.25	3.34	3.37	3.41	3.43	3.43	3.44	3.65	3.66	3.68	3.69	3.73	3.79	3.86	3.66	

2. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい予習の時間をかけていますか？
①7時間以上、②5～7時間、③3～5時間、④1～3時間、⑤0～1時間
3. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい復習の時間をかけていますか？
①5時間以上、②3～5時間、③2～3時間、④1～2時間、⑤0～1時間
4. この授業の難易度はどうですか？
①難しすぎる、②ちょっと難しい、③ちょうどよい、④ちょっとやさしい、
⑤やさしすぎる
5. 授業内容の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
6. 1回ごとの授業の前後の課題の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
7. 授業中の教員と学生のやりとりは授業の質を高めるうえで効果的に行われていると思いますか？
①思わない、②普通である、③思う
8. 学生の質問に対する教員の対応はどうですか？
①不熱心である、②あまり熱心でない、③普通である、④熱心である、⑤大変熱心である
9. 教科書、テキスト、配布資料などは、授業を分かりやすく内容の濃いものにするために有効に活用されていますか？
①まったく活用されていない、②あまりよく活用されていない、③まあまあ、④よく活用されている、⑤大変よく活用されている
10. 教員の説明の仕方はわかりやすいですか？
①非常にわかりにくい、②わかりにくい、③普通である、④わかりやすい、⑤非常にわかりやすい
11. あなたは授業についていけていると思いますか？
①全くついていけていない、②少しついていけていない、③何とかついていけている、④ついていけている、⑤無理なくついていけている
12. 履修を終えた段階で、あなたがこの授業に期待したものを得られると思いますか？
①思わない、②まだよくわからない、③思う
13. この授業は知的好奇心を刺激され、楽しいですか？
①まったく楽しくない、②あまり楽しくない、③普通、④楽しい、⑤とても楽しい
14. この授業に対する総合評価を5段階でしてください。
①常に不満である、②やや不満である、③普通である、④ほぼ満足している、⑤大変満足している

法科大学院アンケート（2010年度後期中間分）について

	分類	一年基本		二年基本		展開先端		実務	
		2009	2010	2009	2010	2009	2010	2010	
2	予習	4.03	3.64	3.89	3.55	4.01	4.12	3.93	大きいほど短い
3	復習	3.77	3.53	3.54	3.54	4.18	4.18	4.21	
4	難易度	2.79	2.86	2.59	2.50	2.63	2.79	2.69	3が丁度よく、小さいほど難・多
5	授業の量	2.8	2.89	2.71	2.74	2.78	2.86	2.82	大きいほど高評価：7と12は3が満点
6	課題の量	2.8	2.93	2.72	2.74	2.75	2.86	2.76	
7	やりとり	2.27	2.49	2.52	2.49	2.6	2.65	2.61	大きいほど高評価：7と12は3が満点
8	質問	3.68	3.75	4.05	4.03	3.94	3.94	3.84	
9	教材	3.82	3.81	3.57	3.72	3.95	3.98	3.73	
10	説明	3.51	3.47	3.7	3.53	3.84	3.93	3.81	
11	理解	2.94	3.13	2.89	2.85	3.01	3.18	3.19	
12	期待	2.46	2.58	2.55	2.49	2.66	2.73	2.63	
13	好奇心	3.34	3.52	3.66	3.56	3.74	3.84	3.79	
14	満足	3.53	3.63	3.69	3.58	3.79	3.97	3.84	

<マークシート項目>

2. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい予習の時間をかけていますか？
①7時間以上、②5～7時間、③3～5時間、④1～3時間、⑤0～1時間
3. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい復習の時間をかけていますか？
①5時間以上、②3～5時間、③2～3時間、④1～2時間、⑤0～1時間
4. この授業の難易度はどうですか？
①難しすぎる、②ちょっと難しい、③ちょうどよい、④ちょっとやさしい、⑤やさしすぎる
5. 授業内容の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
6. 1回ごとの授業の前後の課題の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
7. 授業中の教員と学生のやりとりは授業の質を高めるうえで効果的に行われていると思いますか？
①思わない、②普通である、③思う
8. 学生の質問に対する教員の対応はどうですか？
①不熱心である、②あまり熱心でない、③普通である、④熱心である、⑤大変熱心である
9. 教科書、テキスト、配布資料などは、授業を分かりやすく内容の濃いものにするために有効に活用されていますか？
①まったく活用されていない、②あまりよく活用されていない、③まあまあ、④よく活用されている、⑤大変よく活用されている
10. 教員の説明の仕方はわかりやすいですか？
①非常にわかりにくい、②わかりにくい、③普通である、④わかりやすい、⑤非常にわかりやすい
11. あなたは授業についていけていると思いますか？
①全くついていけない、②少しついていけない、③何とかついていけている、④ついていけている、⑤無理なくついていけている
12. 履修を終えた段階で、あなたがこの授業に期待したものを得られると思いますか？
①思わない、②まだよくわからない、③思う
13. この授業は知的好奇心を刺激され、楽しいですか？
①まったく楽しくない、②あまり楽しくない、③普通、④楽しい、⑤とても楽しい
14. この授業に対する総合評価を5段階でしてください。
①常に不満である、②やや不満である、③普通である、④ほぼ満足している、⑤大変満足している

法科大学院アンケート（2011年度前期中間分）について

項目	分類	一年基本		二年基本		三年基本		実務		展開先端		その他		
		2011	2010	2011	2010	2011	2010	2011	2010	2011	2010	2011	2010	
2	予習	3.63	3.31	3.31	3.67	3.6	3.54	3.84	4.06	4	4.27	4.24	3.94	大きいほど 短い
3	復習	3.72	3.10	3.71	3.8	3.7	3.81	4.07	4.08	4.02	4.22	4.54	4	
4	難易度	2.6	2.6	2.63	2.48	2.72	2.6	2.84	2.67	2.63	2.68	2.61	2.63	3が丁度よ く、小さいほ ど難・多
5	授業の量	2.62	2.95	2.86	2.76	2.82	2.63	2.83	2.76	2.76	2.87	2.73	2.8	
6	課題の量	2.73	2.97	2.72	2.7	2.66	2.55	2.76	2.64	2.75	2.88	2.51	2.54	大きいほど 高評価:7と 12は3が満 点
7	やりとり	2.33	2.38	2.65	2.38	2.54	2.44	2.45	2.61	2.58	2.46	2.61	2.69	
8	質問	4.14	3.97	4	3.84	3.84	3.72	3.71	3.89	3.96	3.73	3.71	4.02	
9	教材	3.97	3.74	3.59	3.38	3.44	3.44	3.51	3.76	4.04	3.78	3.51	3.68	
10	説明	3.82	3.31	3.68	3.32	3.63	3.47	3.4	3.56	3.89	3.66	4.17	3.85	
11	理解	3.27	3.16	3.11	2.9	3.04	2.89	3.19	3.05	3.1	2.94	3.02	3.09	
12	期待	2.54	2.37	2.56	2.3	2.49	2.43	2.43	2.53	2.7	2.53	2.59	2.54	
13	好奇心	3.76	3.56	3.76	3.28	3.48	3.44	3.33	3.56	3.86	3.55	3.78	3.78	
14	満足	3.79	3.46	3.75	3.34	3.52	3.43	3.35	3.65	3.92	3.69	3.73	3.86	

<マークシート項目>

2. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい予習の時間をかけていますか？
①7時間以上、②5～7時間、③3～5時間、④1～3時間、⑤0～1時間
3. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい復習の時間をかけていますか？
①5時間以上、②3～5時間、③2～3時間、④1～2時間、⑤0～1時間
4. この授業の難易度はどうですか？
①難しすぎる、②ちょっと難しい、③ちょうどよい、④ちょっとやさしい、
⑤やさしすぎる
5. 授業内容の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
6. 1回ごとの授業の前後の課題の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
7. 授業中の教員と学生のやりとりは授業の質を高めるうえで効果的に行われていると思いますか？
①思わない、②普通である、③思う
8. 学生の質問に対する教員の対応はどうですか？
①不熱心である、②あまり熱心でない、③普通である、④熱心である、⑤大変熱心である
9. 教科書、テキスト、配布資料などは、授業を分かりやすく内容の濃いものにするために有効に活用されていますか？
①まったく活用されていない、②あまりよく活用されていない、③まあまあ、④よく活用されている、⑤大変よく活用されている
10. 教員の説明の仕方はわかりやすいですか？
①非常にわかりにくい、②わかりにくい、③普通である、④わかりやすい、⑤非常にわかりやすい
11. あなたは授業についていけていると思いますか？
①全くついていけていない、②少しいていけていない、③何とかついていけている、④ついていけている、⑤楽についていけている
12. 履修を終えた段階で、あなたがこの授業に期待したものを得られると思いますか？
①思わない、②まだよくわからない、③思う
13. この授業は知的好奇心を刺激され、楽しいですか？
①まったく楽しくない、②あまり楽しくない、③普通、④楽しい、⑤とても楽しい
14. この授業に対する総合評価を5段階でしてください。
①非常に不満である、②やや不満である、③普通である、④ほぼ満足している、⑤大変満足している

法科大学院アンケート（2011年度後期中間分）について

項目	分類	一年基本		二年基本		実務		展開・先端		基礎・隣接	
		2011	2010	2011	2010	2011	2010	2011	2010	2011	
2	予習	3.59	3.64	3.76	3.55	3.47	3.93	4.24	4.12	4.64	大きいほど
3	復習	3.74	3.53	3.8	3.54	3.8	4.21	4.18	4.18	4.52	短い
4	難易度	2.6	2.86	2.88	2.5	2.58	2.69	2.85	2.79	2.82	3が丁度よ
5	授業の量	2.7	2.89	2.99	2.74	2.65	2.82	2.92	2.86	3.02	く、小さいほ
6	課題の量	2.78	2.93	2.98	2.74	2.67	2.76	2.9	2.86	2.91	ど難・多
7	やりとり	2.36	2.49	2.39	2.49	2.71	2.61	2.66	2.65	2.45	大きいほど 高評価：7と 12は3が 満点
8	質問	3.81	3.75	3.62	4.03	3.96	3.84	3.99	3.94	3.55	
9	教材	3.75	3.81	3.5	3.72	3.81	3.73	3.87	3.98	3.42	
10	説明	3.61	3.47	3.43	3.53	3.88	3.81	3.9	3.93	3.46	
11	理解	3.01	3.13	3.24	2.85	3.14	3.19	3.26	3.18	3.41	
12	期待	2.57	2.58	2.47	2.49	2.77	2.63	2.69	2.73	2.52	
13	好奇心	3.47	3.52	3.45	3.56	3.8	3.79	3.87	3.84	3.74	
14	満足	3.65	3.63	3.47	3.58	3.93	3.84	3.94	3.97	3.63	

<マークシート項目>

2. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい予習の時間をかけていますか？
①7時間以上、②5～7時間、③3～5時間、④1～3時間、⑤0～1時間
3. あなたはこの授業1コマに対し、通常、何時間くらい復習の時間をかけていますか？
①5時間以上、②3～5時間、③2～3時間、④1～2時間、⑤0～1時間
4. この授業の難易度はどうですか？
①難しすぎる、②ちょっと難しい、③ちょうどよい、④ちょっとやさしい、
⑤やさしすぎる
5. 授業内容の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
6. 1回ごとの授業の前後の課題の量について、どう思いますか？
①多すぎる、②ちょっと多い、③ちょうどよい、④ちょっと少ない、⑤少なすぎる
7. 授業中の教員と学生のやりとりは授業の質を高めるうえで効果的に行われていると思いますか？
①思わない、②普通である、③思う
8. 学生の質問に対する教員の対応はどうですか？
①不熱心である、②あまり熱心でない、③普通である、④熱心である、⑤大変熱心である
9. 教科書、テキスト、配布資料などは、授業を分かりやすく内容の濃いものにするために有効に活用されていますか？
①まったく活用されていない、②あまりよく活用されていない、③まあまあ、④よく活用されている、⑤大変よく活用されている
10. 教員の説明の仕方はわかりやすいですか？
①非常にわかりにくい、②わかりにくい、③普通である、④わかりやすい、⑤非常にわかりやすい
11. あなたは授業についていけていると思いますか？
①全くついていけない、②少しついていけない、③何とかついていけている、④ついていけている、⑤楽についていけている
12. 履修を終えた段階で、あなたがこの授業に期待したものを得られると思いますか？
①思わない、②まだよくわからない、③思う
13. この授業は知的好奇心を刺激され、楽しいですか？
①まったく楽しくない、②あまり楽しくない、③普通、④楽しい、⑤とても楽しい
14. この授業に対する総合評価を5段階でしてください。
①非常に不満である、②やや不満である、③普通である、④ほぼ満足している、⑤大変満足している